

Light you up



DAIHATSU

01999-B2547

Tanto

ウェルカムシートリフト
ウェルカムターンシート

取扱説明書

よくお読みになって使用してください。
取扱説明書はお車の中に保管しましょう。



DAIHATSU

このたびは、ダイハツ車をお買い上げいただき、 ありがとうございます。

- 本書は、タント ウェルカムシートリフト・ウェルカムターンシート・パワークレーンの正しい取り扱いかたや、お手入れの方法などについて説明している他、お車を操作する上で必ず守っていただきたいこと、また、万一のときの処置についても記載しています。安全で快適なカーライフをお楽しみいただくために、ご使用の前に必ずお読みください。
- 基本的な内容は同梱のタント取扱説明書をご覧ください。

ご愛車のために

- 車種によって取り扱い方法が異なる場合は、車両型式やエンジン型式を確認した上で操作を行ってください。車両型式、エンジン型式はタント取扱説明書の「ご愛車に関するメモ」にあらかじめ記入しておくとう便利です。
- 保証および点検・整備については、別冊の「メンテナンスノート」に記載していますのでお読みください。
- ダイハツサービス工場で取り付けられた装備の取り扱いについては、添付されている取扱説明書を参照してください。
- お車をゆずられる際は、次のオーナーのために必ず本書をお車に付けておいてください。
 - 車の仕様変更により、本書の内容やイラストがお車と一部異なる場合がございますがご了承ください。
 - 本書は別冊の「メンテナンスノート」とともに、いつもお車に保管しておいてください。
 - ご不明な点は、ご購入先のダイハツサービス工場（営業スタッフ）におたずねください。

イラスト目次	イラストから検索
--------	----------

1	安全・安心のために	お客様に必ずお読みいただきたいこと
2	助手席シートリフト	助手席シートリフトに関する説明
3	助手席ターンシート	助手席ターンシートに関する説明
4	車いす固縛ベルト・ パワークレーン	車いす固縛ベルト・パワークレーンに関する説明
5	万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処
6	点検・整備項目	定期点検整備についての説明

さくいん	症状から検索
	音から検索
	五十音で検索

イラスト目次	4
本書の見方	8

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために	
助手席シートリフトに	
ついて	10
助手席ターンシートに	
ついて	15
車いす・パワークレーンの	
固定について	19

2 助手席シートリフト

2-1. 助手席シートリフト	
助手席シートリフトの調整 ...	22
アームレスト	24
フットレスト	26
正しい乗車姿勢	27
ワイヤレスリモコン	28
2-2. 操作のしかた	
助手席シートリフトの	
操作をするときは	31
助手席シートリフトを	
車外に出すときは	37
助手席シートリフトを	
車内に戻すときは	41
シート昇降スイッチでの	
操作	43

3 助手席ターンシート

3-1. 助手席ターンシート	
助手席ターンシートの調整 ...	46
アームレスト	48
正しい乗車姿勢	50
3-2. 操作のしかた	
助手席ターンシートの	
操作をするときは	51
助手席ターンシートを	
車外へ回転させるときは	54
助手席ターンシートを	
車内に戻すときは	57

4 車いす固縛ベルト・パワークレーン

4-1. パワークレーン	
車いすの収納前の準備	60
保護カバー	62
パワークレーン	63
4-2. 車いすの収納・固定	
車いす固縛ベルト	71
車いすの固定・	
解除のしかた	73

5 万一の場合には

5-1. 故障かな？とお考えになる前に

ヒューズの交換	82
助手席シートリフトが 動かないときは	85
助手席ターンシートが 動かないときは	86
ワイヤレスリモコンの 電池交換	87

5-2. 緊急時の対処法

助手席シートリフトが 車外に出た状態で 動かないときは	89
助手席ターンシートが 車外に回転させた状態で 動かないときは	97
パワークレーンが 動かないときは	100

6 点検・整備項目

6-1. 点検・整備項目

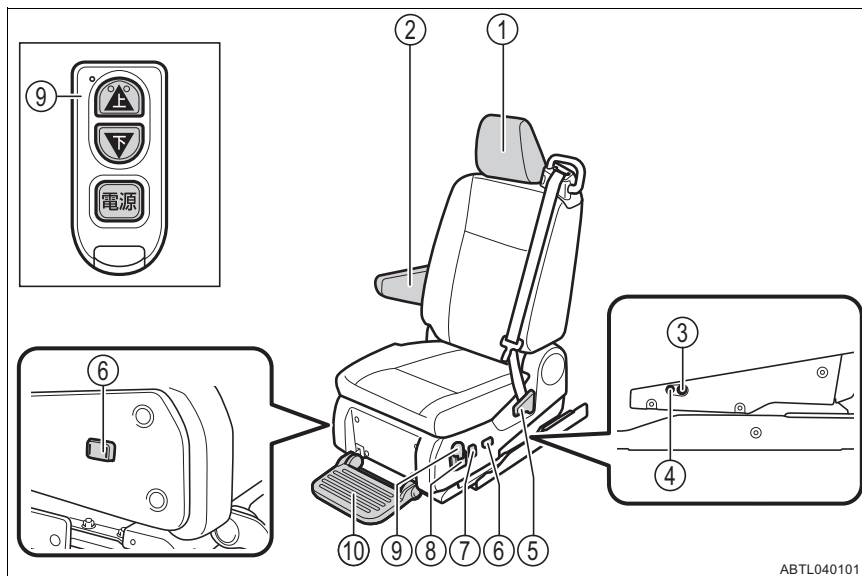
定期点検整備	102
--------------	-----

さくいん

こんなときは (症状別さくいん)	108
お車から音が鳴ったときは (音さくいん)	111
五十音順さくいん	112

イラスト目次

▶ 助手席シートリフト

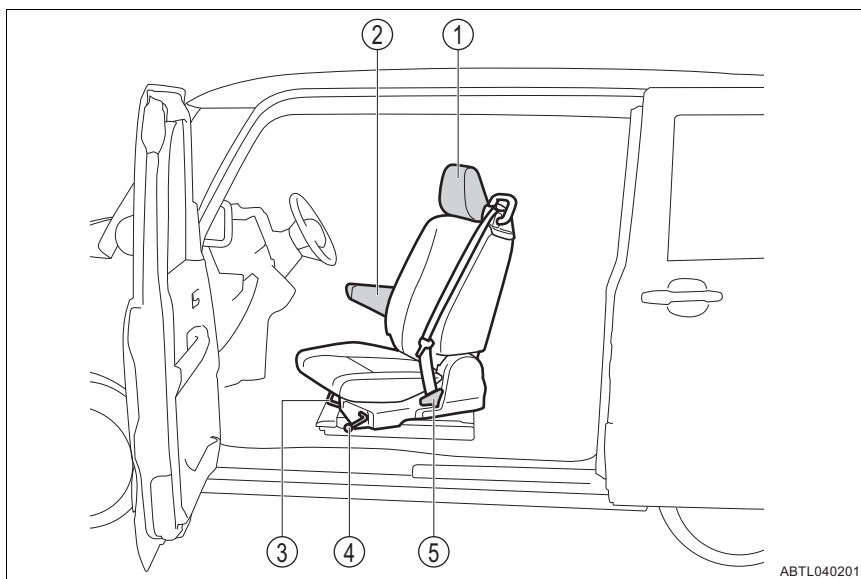


ABTL040101

- ① ヘッドレスト ※
- ② アームレスト P. 24
- ③ シート昇降位置切替スイッチ P. 38
- ④ 確認ランプ P. 38
- ⑤ シートリクライニングレバー P. 22
- ⑥ シート前後スライドスイッチ P. 22
- ⑦ シート昇降スイッチ P. 43
 - 助手席シートリフトが上昇するが下降しないときの
シート格納について P. 90
- ⑧ リモコンポケット P. 28
- ⑨ ワイヤレスリモコン P. 28
 - 助手席シートリフトを車外に出すときは P. 37
 - 助手席シートリフトを車内に戻すときは P. 41
 - 電池交換 P. 87
- ⑩ フットレスト P. 26

※ 別冊「タント取扱説明書」の『ヘッドレスト』を参照してください。

▶ 助手席ターンシート

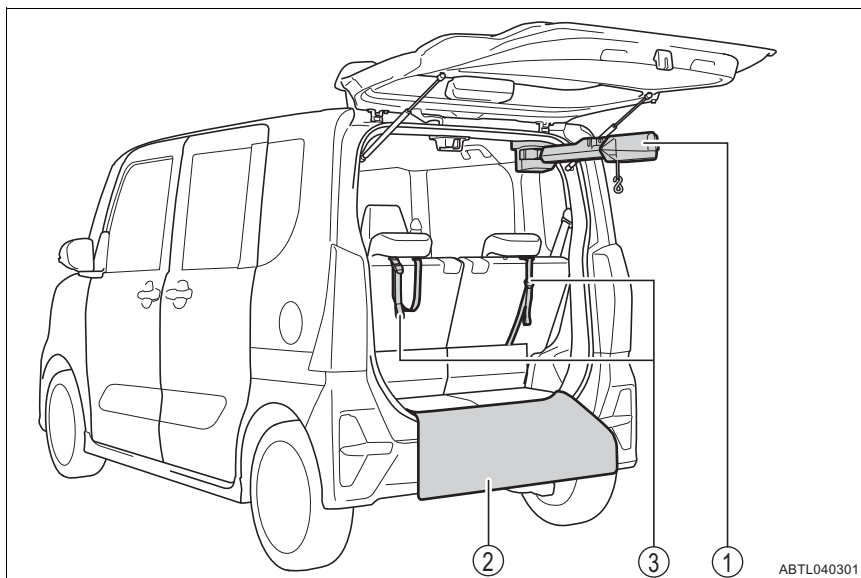


- ① ヘッドレスト※
- ② アームレストP. 48
- ③ スライドレバーP. 46
- ④ 回転レバー P. 54, 57
- ⑤ リクライニングレバーP. 46

※ 別冊「タント取扱説明書」の『ヘッドレスト』を参照してください。

▶ 車いす固縛ベルト

▶ パワークレーン



- ① パワークレーン★P. 63
- ② 保護カバー★P. 62
- ③ 車いす固縛ベルトP. 71
- 固定・解除のしかたP. 73

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

本書の見方



警告

お守りいただかないと、お客様ご自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。



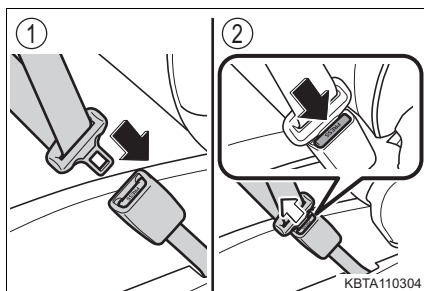
注意

お守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1 2 3... 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

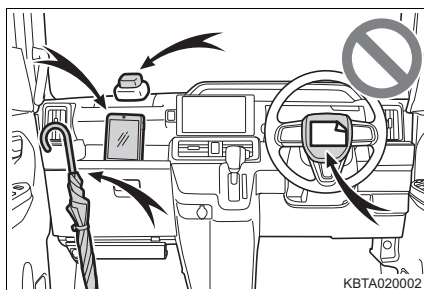
➡: 押す・回すなど、していただきたい操作を示しています。

➡: ふたが開くなど、操作後の作動を示しています。



➡: 説明の対象となるもの・場所を示しています。

⊘: “してはいけません”
“このようにしないでください”
“このようなことを起こさないでください”という意味です。



知識

機能や操作方法の説明以外で知っていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

助手席シートリフトに ついて	10
助手席ターンシートに ついて	15
車いす・パワークレーンの 固定について	19

助手席シートリフトについて

本書におけるタント助手席シートリフト車の操作はすべて介助の方が行ってください。

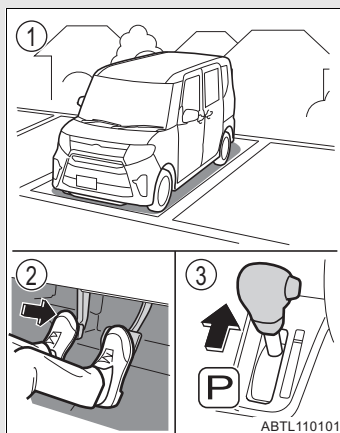
この項目では、助手席シートリフトについて、必ず守っていただきたいことをまとめてあります。

⚠ 警告

■ 操作および車いすを収納するときは

不整地や傾斜地で操作しないでください。車いす・助手席シートリフトからの転落や、車いす収納時に車いすが傾いて体や車両に当たるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。また、周囲の安全を確かめながら使用してください。

- ① 平坦な場所で操作
- ② パーキングブレーキを確実にかける
- ③ シフトレバーを P にする



■ 操作する前に

- 必ず助手席ドアを全開にしてください。

操作時、助手席シートリフト乗車の方の手足が助手席ドアと接触し、けがをするおそれがあります。

また、フットレストとドアトリムが干渉し、損傷するおそれがあります。



- スライドドアを開けるときは、必ず全開位置まで開けて、確実に固定されていることを確認してください。スライドドアが確実に固定されていないと、不意に動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告**■チャイルドシートの装着禁止**

助手席シートリフトにチャイルドシートを装着しないでください。
装置の破損や、お子さまが重大な傷害を受けるか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■操作するときは**

- 正しい姿勢で乗車してください。(→ P. 27)
- 乗員の体について十分な安全確認をしてください。

助手席シートリフトを回転・昇降させるときに、頭や手足をドア開口部に当てるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ① ドア開口部と頭部の接触に注意する
- ② インストルメントパネルおよびグローブボックスに足をぶつけないように注意する
- ③ ドア開口部と助手席シートリフトのすき間に挟まれないように注意する
- ④ インストルメントパネルおよびグローブボックスと助手席シートリフトのすき間に挟まれないように注意する
- ⑤ ドアと手足などの接触に注意する



警告

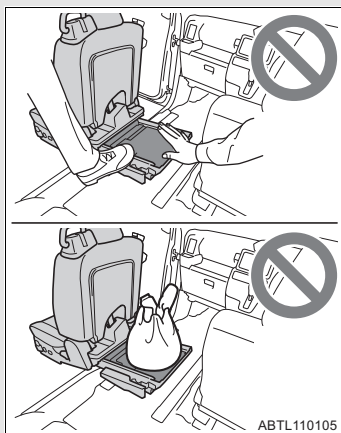
- 操作時は、両腕が助手席シートリフトの内側に収まるようにしてください。

腕がシートの外側に出ていると、車両やドアなどに腕を挟むなどして思わぬけがをするおそれがあります。



- フットレストの上で立ち上がらないでください。
フットレストが破損したり、フットレストから落ちてけがをするおそれがあります。
- 操作中はスライドドアを開閉しないでください。スライドドアに手足を挟まれ、けがをするおそれがあります。
- 助手席シートリフト作動時、助手席シートリフトの下および周辺、スライドレールの上に手足や荷物を入れないでください。

手足を挟まれけがをしたり、荷物を損傷するおそれがあります。



⚠ 警告

■ 助手席シートリフトを車内に格納したときは

助手席シートリフトが確実に格納されているか確認してください。

確実に格納されていないと、助手席シートリフトが不意に動いて思わぬ事故につながるおそれがあります。

正常格納時：格納完了時、“ピピピッ”とブザーが鳴ります。

異常格納時：格納不良時または格納不良のまま助手席ドアを閉めると“ピー…”という連続音が鳴ります。

異常格納時は、助手席ドアを開けてからワイヤレスリモコンの電源を入れ、シート上昇スイッチ（またはシート昇降スイッチの上側）を押し続け、格納を完了させてください。



ABTL110106

格納不良のままだと走行中に助手席シートリフトが動き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

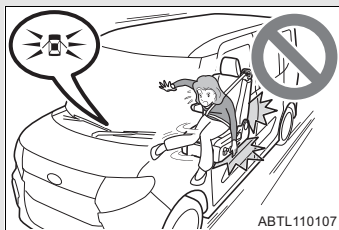
また、格納不良のままだとバッテリーあがりの原因にもなります。

■ 走行する前の安全確認

半ドア状態のまま走行しないでください。

半ドア状態のまま走行して、シート昇降スイッチに触れたり操作すると、助手席シートリフトが動き、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

走行する前に半ドア警告灯が消灯し、すべてのドアが確実に閉まっていることを確認してください。



ABTL110107

■ 強風時の助手席ドアについて

強風時、助手席ドアが閉まることがあります。助手席ドアが助手席シートリフトおよび乗員に当たり、けがをしますおそれがありますので、注意してください。

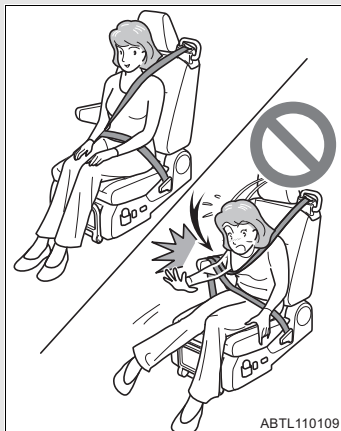


ABTL110108

⚠ 警告**■ 助手席シートリフト乗員のシートベルトの着用**

走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。(→別冊「タント取扱説明書」の『シートベルト』)

正しく着用しないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■ 胸部固定用ベルトの使用について**

SRS サイドエアバッグが装着されたシートの背もたれ部を覆うような胸部固定用ベルトを使用しないでください。

SRS サイドエアバッグの正常な展開を妨げるおそれがあります。

■ 走行するときは

シートリフトを外側に出した状態での走行は絶対に行わないでください。車外の人やものに当たるなどして思わぬ事故につながるおそれがあり大変危険です。

助手席ターンシートについて

この項目では、助手席ターンシートについて、必ず守っていただきたいことをまとめてあります。

⚠ 警告

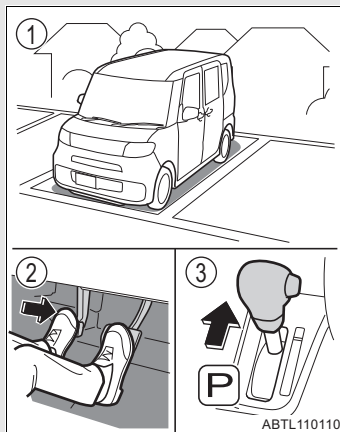
■ 操作するときは

不整地や傾斜地で操作しないでください。

車いす・助手席ターンシートからの転落や、車いす収納時に車いすが傾いて体や車両に当たるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

また、周囲の安全を確かめながら使用してください。

- ① 平坦な場所で操作
- ② パーキングブレーキを確実にかける
- ③ シフトレバーをPにする



■ 助手席ドアの開閉について

助手席ターンシートは助手席ドアを全開にしなくても乗降可能です。乗降時は助手席ターンシート乗車の方の足が助手席ドアと接触し、けがをしないよう注意して操作してください。



■ チャイルドシートの装着禁止

助手席ターンシートにチャイルドシートを装着しないでください。

装置の破損や、お子さまが重大な傷害を受けるか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



⚠ 警告

■ 乗り降りするときは

乗り降りする方の頭上の十分な安全確認をしてください。

ドア開口部に頭部を当て、けがをすることおそれがあります。

- ① 乗車時
- ② 降車時

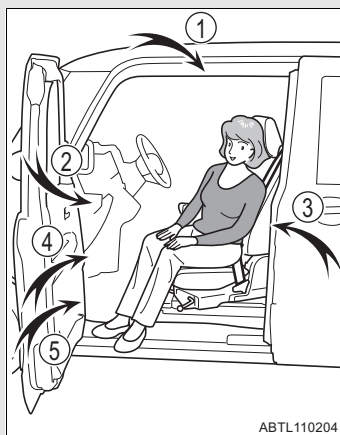


■ 操作するときは

- 正しい姿勢で乗車してください。
(→ P. 50)
- 乗員の体について十分な安全確認をしてください。

助手席ターンシートを回転させるときに、頭や手足をドア開口部に当てるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ① ドア開口部と頭部の接触に注意する
- ② インストルメントパネルに手や足をぶつけないように注意する
- ③ ドア開口部と助手席ターンシートのすき間に手を挟まれないように注意する
- ④ インストルメントパネルと助手席ターンシートのすき間に挟まれないように注意する
- ⑤ ドアやドア開口部と足の接触に注意する



！ 警告

- 助手席ターンシート作動時、シートの下および周辺、スライドレールの上に手足や荷物を入れないでください。

手足を挟まれけがをしたり、荷物を損傷するおそれがあります。



- スライドドアを開けて助手席ターンシートを操作するときは、必ずスライドドアを全開にしてください。

スライドドアが全開位置で固定されていないと、スライドドアが不意に動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 助手席ターンシート回転時はスライドドアを開閉しないでください。

スライドドアに手足を挟まれ、けがをするおそれがあります。

■ 強風時の助手席ドアについて

強風時、助手席ドアが閉まることがあります。

助手席ドアが助手席ターンシートおよび乗員に当たり、けがをするおそれがありますので、注意してください。



⚠ 警告

■ 助手席ターンシートを車内に戻したときは

助手席ターンシートを前後左右にゆすり、シートが確実に格納位置で固定されているか確認してください。
また、走行時など乗降時以外は回転レバーを操作しないでください。
確実に固定されていないと、走行中にシートが動き、思わぬ事故の原因になって重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



ABTL110207

■ 助手席ターンシート乗員のシートベルトの着用

走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。(→別冊「タント取扱説明書」の『シートベルト』)
正しく着用しないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



ABTL110208

■ 胸部固定用ベルトの使用について

SRS サイドエアバッグが装着されたシートの背もたれ部を覆うような胸部固定用ベルトを使用しないでください。
SRS サイドエアバッグの正常な展開を妨げるおそれがあります。

■ 走行するときは

助手席ターンシートを外側に回転させた状態での走行は絶対に行わないでください。

車外の人やものに当たるなどして思わぬ事故につながるおそれがあり大変危険です。

車いす・パワークレーン★の固定について

車いす・パワークレーンの固定について、必ず守っていただきたいことをまとめてあります。

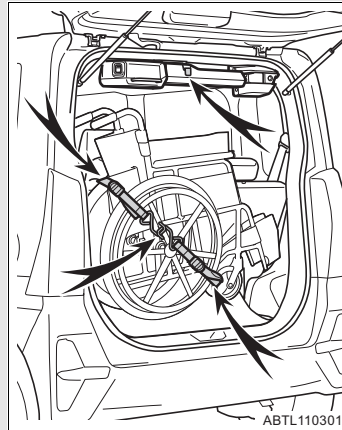
⚠ 警告

■ 車いす・パワークレーンの固定確認

確実に固定されているか確認してください。

急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに車いすが車室内にとび込んだり、車いすやパワークレーンのアームが動いて車両や車いすが損傷するなど、重大な事故につながるおそれがあります。

また、車いす固縛ベルトにねじれがないことも確認してください。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

助手席シートリフト

2

2-1. 助手席シートリフト

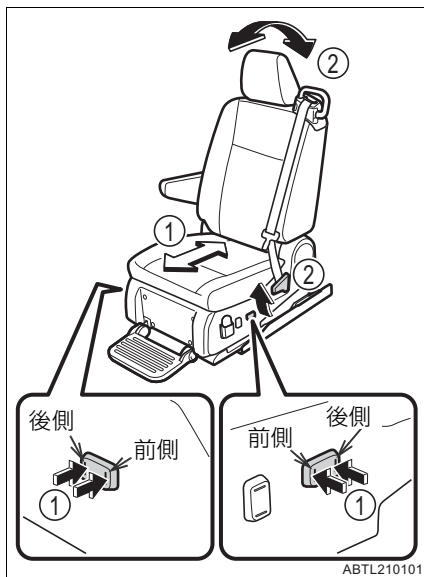
助手席シートリフトの調整 …	22
アームレスト ……………	24
フットレスト ……………	26
正しい乗車姿勢 ……………	27
ワイヤレスリモコン ……………	28

2-2. 操作のしかた

助手席シートリフトの 操作をするときは ……………	31
助手席シートリフトを 車外に出すときは ……………	37
助手席シートリフトを 車内に戻すときは ……………	41
シート昇降スイッチでの 操作 ……………	43

助手席シートリフトの調整

- ① 前後位置調整
(シート前後スライドスイッチ)
- ② リクライニング調整
(シートリクライニングレバー)



知識

■ 助手席シートリフトのリクライニング角度について

助手席シートリフトのリクライニング角度は標準車の助手席シートとは異なります。

■ 作動条件について

助手席シートリフトが車内に正常格納されていない状態では、前後位置調整はできません。

■ シートアレンジについて

助手席シートリフトはフルフラットモード・ウォークスルーモードにすることはできません。

警告**■ 前後位置調整について**

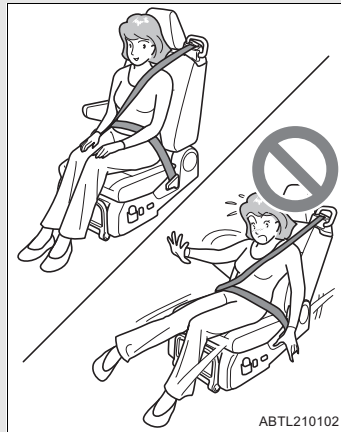
前後位置調整は、必ず走行前に行ってください。

■ リクライニング調整について

● リクライニング調整は必ず走行前に行ってください。調整後は背もたれを軽くゆすり、背もたれが確実に固定されたことを確認してください。背もたれが固定されていないと走行中に背もたれが動き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

● 走行中は背もたれを必要以上に倒さないでください。

事故のときに体がシートベルトの下にもぐり込み、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



● 背もたれを戻すときは、背もたれを押さえながらリクライニングレバーを操作してください。

背もたれを押さえずにレバーを操作すると背もたれが急に戻り、けがをするおそれがあります。

● リクライニングレバーを操作するときは、背もたれにあまり力をかけないでください。背もたれに強い力がかかっていると急に背もたれが倒れ、けがをするおそれがあります。

注意**■ 故障を防ぐために**

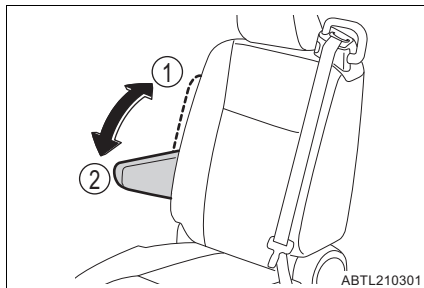
● 前後位置調整の作動が完了したらスイッチから指を離してください。スイッチを押し続けると故障の原因になります。

● 助手席の前後にものを置かないでください。前後位置調整時にものを挟むなどして助手席シートリフトが損傷するおそれがあります。

アームレスト

助手席シートリフトの回転および昇降操作は、アームレストをいっぱいまで下げた状態で行います。

- ① 上げる
- ② 下げる



知識

■ シートベルトの着用について

アームレストを上げた状態にすると、シートベルトの着用が容易になります。

警告**■ シートベルトを着用するときは**

シートベルトはアームレストの下に通して正しく着用してください。アームレストにかかった状態で着用すると、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

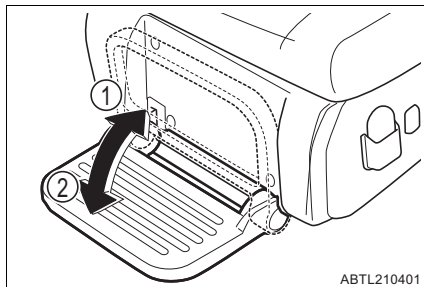
**■ アームレストについて**

- アームレストを操作するときは、シートとアームレストのすき間に手などを入れないでください。指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。特にお子さまが指などを挟まないように十分注意してください。
- アームレストの上に乗ったり、重いものを載せないでください。アームレストが破損したり、けがをするおそれがあります。

フットレスト

助手席シートリフトの回転および昇降操作は、フットレストをいっぱいまで下げた状態で行います。

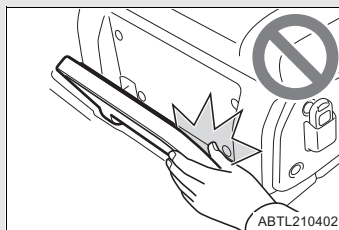
- ① 上げる
- ② 下げる



⚠ 警告

■ フットレストを操作するときは

必ずフットレスト先端部を持って操作してください。
回転部近くを持つと指などを挟み、けがをするおそれがあります。



正しい乗車姿勢

次のように正しい姿勢で乗車してください。

- ① 背もたれを一旦前に倒して 1 段目の固定位置まで起こし (①)、4 段目から 5 段目のいずれかの固定位置に調整 (②) する
- ② 両ひざをそろえて助手席シートリフトの内側に収まるように座る
- ③ アームレストを下げ、両腕を助手席シートリフトの内側に収まるように置く
- ④ フットレストを下げ、両足をフットレストに乗せる
フットレストに足を乗せることができない場合は、足が助手席シートリフトと車両の間で挟まれないように介助の方が支えてください。
- ⑤ シートベルトを着用する



ABTL210501

⚠ 警告

■乗車のときは

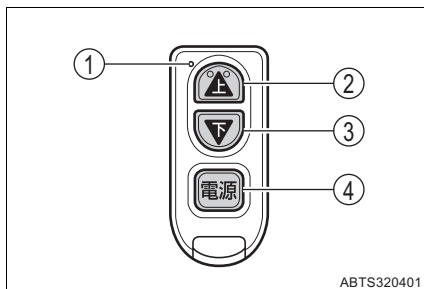
- 助手席シートリフトに深く着座できない方、ひざが曲がらない方の場合は、足が車両に当たり、座った状態での助手席シートリフトの回転が困難になります。足が当たる場合はリヤモード (→ P. 32) で乗車してください。
- フットレストの上で立ち上がらないでください。
フットレストが破損したり、フットレストから落ちてけがをすることがあります。
- 操作時は、フットレストをいちばん下げた位置にして、両足をフットレストに乗せて使用してください。足をフットレストに乗せていないと乗車姿勢が不安定になったり、転落のおそれがあります。

ワイヤレスリモコン

ワイヤレスリモコンで助手席シートリフトの回転、および昇降操作ができます。

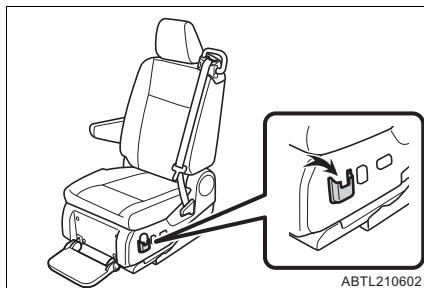
各部の名称

- ① 動作表示 LED
- ② シート上昇スイッチ
- ③ シート下降スイッチ
- ④ 電源スイッチ



リモコンポケット

リモコンを使用しないときは、リモコンポケットに収納してください。



 知識

■ 作動条件について

- ワイヤレスリモコンは、周囲の状況により作動可能範囲が変わることがあります。
- 周囲の電波状況により、シート下降スイッチまたはシート上昇スイッチを押しても助手席シートリフトが一時的に停止する場合や、作動しなくなることがあります。その際は次のことを行ってください。
 - ・ 立つ位置を変えて操作する
その際、スイッチは押し直してください。押し続けたまま立つ位置を変えても助手席シートリフトは作動しません。
 - ・ シート昇降スイッチで操作する (→ P. 43)
- 助手席側ガラスに次のものを貼り付けると、受信機への電波がさえぎられて受信感度が低下し、作動可能距離が短くなるおそれがあります。
 - ・ 金属を含有するウインドウフィルム
 - ・ その他の金属物 (ダイハツ純正品以外のアンテナなど)

■ ワイヤレスリモコンについて

- ワイヤレスリモコンは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。
 - ・ 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
 - ・ 必ず日本国内で使用してください。
- ワイヤレスリモコンを交換したときは、ID コードを登録する必要があります。登録はダイハツサービス工場にお申し付けください。

■ 電池について

- 電池寿命は約 1 年間です (1 日の操作時間を 30 秒、1 日の操作回数を 20 回で計算した場合)。ただし、電池寿命は実際の使用状況によって変わります。
- ワイヤレスリモコンを操作しても助手席シートリフトが作動しない場合や、著しく作動可能距離が短くなった場合、または動作表示 LED が点灯しなくなったり、点滅しなくなった場合は、電池の消耗が考えられます。電池を交換してください。電池はお客様ご自身で交換できます。(→ P. 87)

■ 航空機に乗るときは

航空機にワイヤレスリモコンを持ち込む場合は、航空機内でワイヤレスリモコンのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運航に支障をおよぼすおそれがあります。

 警告**■ 電波がおよぼす影響について**

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の作動に影響を与えるおそれがあります。

■ ワイヤレスリモコンを使用するときは

安全に使用していただくため、次のことを必ずお守りください。(→ P. 28)

- 必ず介助の方が乗員の体が見える位置で、助手席シートリフト乗車の方の頭・腕・足などが車両と挟まれていないことを確認できる距離で操作する
- 必ず介助の方が助手席シートリフトまたは助手席シートリフト乗車の方に手を添えるなどして操作する

 注意**■ 故障を防ぐために**

- ワイヤレスリモコンは電子部品のため、次のことを必ずお守りください。
 - ・ ダッシュボードの上など、直射日光の当たる場所および高温になるところに置かない
 - ・ 分解しない
 - ・ 落とす、踏むなどの強い衝撃を与えない
 - ・ 飲みものなどをこぼしたり、水たまりなど、水中に落下させない
(防滴構造ですが、できるだけ水にぬらさないでください)
- ワイヤレスリモコンの清掃にシンナー・ガソリン・ベンジンなどの溶剤を使用しないでください。
表面が変形するおそれがあります。清掃するときは、水またはぬるま湯を布などに含ませ、固くしぼってからふいてください。
- 故障の原因となりますので、断続的にシート上昇スイッチ、またはシート下降スイッチを押さないでください。
断続的にスイッチを押しても助手席シートリフトは作動しません。スイッチは、押し続けてください。
- スwitchの切り替え操作をするときは、約 1 秒以上たってから行ってください。瞬時に切り替え操作を行うと、助手席シートリフトが故障するおそれがあります。

助手席シートリフトの操作をするときは

助手席シートリフトは、シートを回転・昇降させ、車内外へ出し入れすることができます。

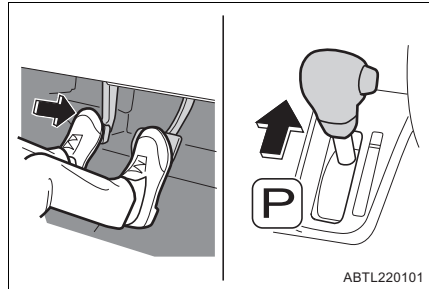
操作はすべて介助の方が行ってください。

格納後は助手席シートリフトを前後左右にゆすり、シートが確実に格納されたことを確認してください。

助手席シートリフトを操作する前に

2

- 1 安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPにする



- 2 助手席ドアを全開にする

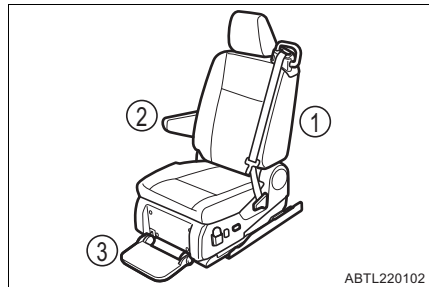
- 3 リヤ側から乗降（→ P. 32）するとき、次のことを行う

- ・ 左側スライドドアを全開にする
- ・ リヤシートを後方いっぱいまでスライドさせる

- 4 助手席シートリフトの周囲および作動範囲内に、人や荷物がいないことを確認する

- 5 助手席シートリフトを回転・昇降するとき、助手席シートリフトを次の状態に調整する

- ① 背もたれを調整する（→ P. 27）
- ② アームレストをいちばん下げた位置にする
- ③ フットレストをいちばん下げた位置にする



- 6 室内装備が次の状態になっていることを確認する

- ・ グローブボックスが閉まっていること
- ・ サンバイザーが格納されていること

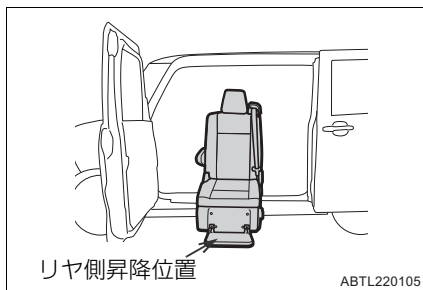
助手席シートリフトの使いかた

リヤ側、またはフロント側から乗降できます。

◆ リヤ側からの乗降（リヤモード）

大開口スペースをいかした乗降ができます。

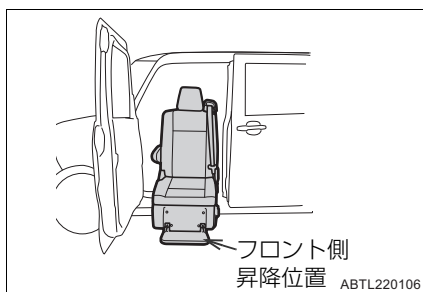
助手席ドア、スライドドアともに全開にして、助手席シートリフトを操作します。



◆ フロント側からの乗降（フロントモード）

助手席ドア開口スペース内で乗降ができます。

助手席ドアを全開にし、シート昇降位置切替スイッチを押してから、助手席シートリフトを操作します。



 知識

■ ブザーについて

動作や状況に応じて次のようにブザーが鳴ります。

ブザー		動作・状況
ピピピッ		ワイヤレスリモコンのシート上昇スイッチ、またはシート昇降スイッチの上昇側を押して助手席シートリフトが格納完了したとき
ピピッ		ワイヤレスリモコンのシート下降スイッチ、またはシート昇降スイッチの下降側を押して助手席シートリフトが下降完了したとき
		ワイヤレスリモコンまたはシート昇降スイッチを押して助手席シートリフトが上昇または下降作動を開始するとき（リヤモード時）
		シート昇降位置切替スイッチを押してリヤモードに切り替えたとき
ピッ		ワイヤレスリモコンまたはシート昇降スイッチを押して助手席シートリフトが上昇または下降作動を開始するとき（フロントモード時）
		シート昇降位置切替スイッチを押してフロントモードに切り替えたとき
警告時	ピー …	助手席シートリフトが未格納のとき ※ ¹
		シフトレバーが P 以外でシートリフトの操作を行ったとき
		助手席シートリフト作動中に助手席ドア・左側スライドドア（リヤモード）のいずれかを閉じたとき
		助手席シートリフトが作動中に障害物に当たるなど、過負荷を検知して反転作動したとき ※ ²
	ピッ … ピッ … ピッ …	助手席シートリフトに異常が発生したとき ※ ³

※¹ バッテリー保護のため、約 30 分後ブザーは鳴り止みます。助手席ドアを閉めていてブザーが鳴り止んだ場合は、助手席ドアを開けると再度鳴り始めます。

※² 障害物がある場合は、取り除いてから操作してください。

知識

※3 次の復帰作業を行ってもブザーが鳴り止まないときは、バッテリー端子を外してから手で助手席シートリフトを車内に戻し（→ P. 92）、ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

- ・ワイヤレスリモコンのシート上昇スイッチ、またはシート昇降スイッチの上昇側を押してシートを完全に格納する（→ P. 90）

警告

■チャイルドシートの装着禁止

→ P. 11

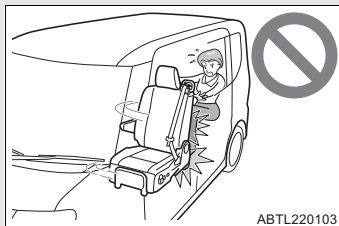
■強風時の助手席ドアについて

→ P. 13

■助手席シートリフトを操作する前に

- 助手席シートリフトに深く着座できない方、ひざが曲がらない方の場合、足が車両に当たり、座った状態での助手席シートリフトの回転が困難になります。足が当たる場合はリヤモード（→ P. 32）で乗車してください。

- 助手席側リヤシートにチャイルドシートを取り付けたり、乗員を乗せたりしないでください。助手席シートリフトに挟まれけがをするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。



- 必ず助手席ドアおよびスライドドア（リヤモードのみ）を全開にしてください。

全開にしないと助手席シートリフト操作時、助手席シートリフト乗車の方の手足が助手席ドアやスライドドアと接触し、けがをするおそれがあります。

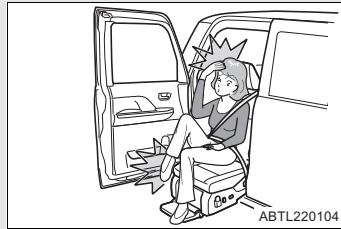
また、フットレストとドアトリムが干渉し、損傷するおそれがあります。



警告**■ 助手席シートリフトを操作するときは**

- 助手席シートリフトに乗車の方の頭上や手足に注意してください。

頭をドア開口部に当てたり、ひざや手足など体の一部をインストルメントパネルやドア開口部に当てるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。(→ P. 11)



- 助手席シートリフト作動時、助手席シートリフトの下および周辺、スライドレールの上に手足や荷物を入れないでください。
手足を挟まれけがをしたり、荷物を損傷するおそれがあります。(→ P. 12)
- アームレストは、いちばん下げた位置で使用してください。(→ P. 24)
正しく使用しないと乗車姿勢が不安定になったり、転落のおそれがあります。(→ P. 27)
- フットレストの上で立ち上がらないでください。
フットレストが破損したり、フットレストから落ちてけがをするおそれがあります。
- グローブボックスを閉じてください。
助手席シートリフト乗車の方の手足や助手席シートリフトがグローブボックスに当たるなどして、けがをするおそれがあります。
- サンバイザーを格納してください。
サンバイザーに頭やヘッドレストを当てるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

 注意**■ 損傷などを防ぐために**

- 助手席シートリフトを操作する前に、可動部周辺に障害物がないことを確認してください。
- アームレストは、いちばん下げた位置で使用してください。(→ P. 24)
アームレストとインストルメントパネルが当たり、アームレストやインストルメントパネルを損傷するおそれがあります。
- 助手席シートリフトのリフト能力 100kg を超えないようにしてください。
助手席シートリフトが故障するおそれがあります。
- グローブボックスを閉じてください。
助手席シートリフトとグローブボックスが当たり、破損するおそれがあります。
- 助手席シートリフトを昇降させるときは、必ずリヤシートを後ろいっぱいまでスライドさせてください。
リヤシートと助手席シートリフトが当たり、リヤシートや助手席シートリフトが損傷するおそれがあります。

■ バッテリーあがりを防ぐために

助手席シートリフトを長時間操作するときは、エンジンをかけてください。エンジンを停止した状態で長時間操作すると、バッテリーあがりの原因になります。

助手席シートリフトを車外に出すときは

リヤ側から車外に出すとき（リヤモード）

① 操作前に、次の状態を確認する

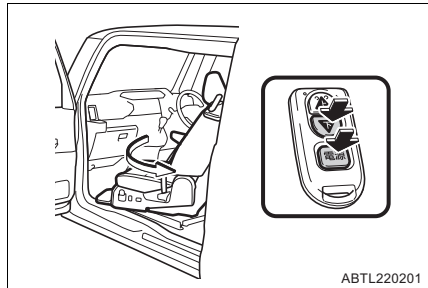
- ・ 助手席シートリフトに乗車している方が正しい乗車姿勢であること（→ P. 27）
- ・ 助手席シートリフトおよび車両の状態（→ P. 31）
- ・ リヤシートの状態（→ P. 31）
- ・ 助手席側リヤシート同乗者の安全（→ P. 34）

② ワイヤレスリモコンの電源スイッチを押し、動作表示 LED が赤色点灯中（6 秒以内）にシート下降スイッチを押し続け、助手席シートリフトを回転・下降させる

シート昇降スイッチで操作することもできます。（→ P. 43）

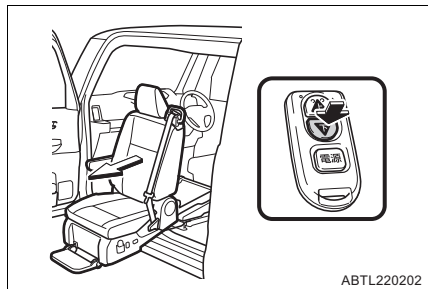
- ① “ピピッ” とブザーが鳴り、回転
開始位置まで助手席シートリフトが移動する
動作表示 LED が緑色に点滅します。

- ② 助手席シートリフトが回転する



- ③ 助手席シートリフトが車外側へ下降する

下降が停止し、“ピピッ” とブザーが鳴ったらスイッチから指を離します。



フロント側から車外に出るとき（フロントモード）

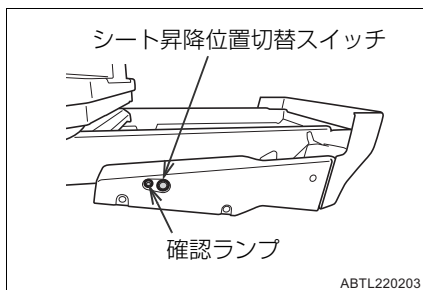
① 操作前に、次の状態を確認する

- ・ 助手席シートリフトに乗車している方が正しい乗車姿勢であること（→ P. 27）
- ・ 助手席シートリフトおよび車両の状態（→ P. 31）
- ・ 助手席側リヤシート同乗者の安全（→ P. 34）

② シート昇降位置切替スイッチを押す

“ピッ”とブザーが鳴り、スイッチ横の確認ランプが点灯します。シートリフトをフロント側から車外に出すことができます。

再度押すと“ピピッ”とブザーが鳴り、スイッチ横の確認ランプが消灯し、元の状態に戻ります。



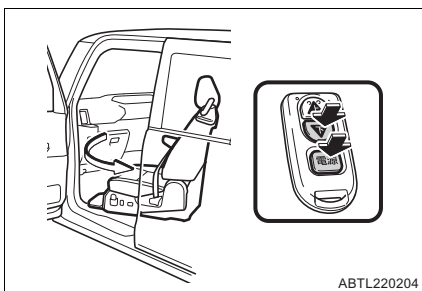
③ ワイヤレスリモコンの電源スイッチを押し、動作表示 LED が赤色点灯中（6 秒以内）にシート下降スイッチを押し続け、助手席シートリフトを回転・下降させる

シート昇降スイッチで操作することもできます。（→ P. 43）

① “ピッ”とブザーが鳴り、回転開始位置まで助手席シートリフトが移動する

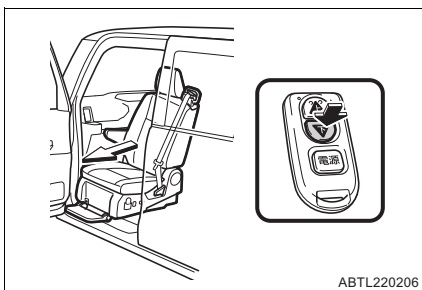
動作表示 LED が緑色に点滅します。

② 助手席シートリフトが回転する



③ 助手席シートリフトが車外側へ下降する

下降が停止し、“ピピッ”とブザーが鳴ったらスイッチから指を離します。



 知識

■ 作動条件について

次の場合はシート下降スイッチを押すと、“ピー…”とブザーが鳴り、助手席シートリフトは回転および下降しません。(→ P. 33)

- 左側スライドドアが閉まっている (リヤモード)
- シフトレバーが P 以外になっている
- バッテリーの電圧が低下している

■ ワイヤレスリモコンについて

- 電源スイッチを押してから 6 秒以内にシート上昇スイッチまたはシート下降スイッチを押さないと、自動的に電源が切れます (動作表示 LED 消灯)。シート上昇スイッチまたはシート下降スイッチを押すと、電源はスイッチから指を離れた時点より 6 秒延長します。
- シート上昇スイッチまたはシート下降スイッチを押し、ブザーが鳴ってから作動します (リヤモード：ピピッ、フロントモード：ピッ)。断続的にスイッチを押しても助手席シートリフトは作動しません。
- 助手席シートリフト作動中にシート上昇スイッチまたはシート下降スイッチから指を離すと、助手席シートリフトはその位置で停止します。
- 複数のスイッチを同時に押すと、助手席シートリフトは作動しません。

■ 挟み込み防止機能について

助手席シートリフトが作動中、障害物に当たるなど助手席シートリフトの作動が妨げられると、“ピピッ”とブザーが鳴り、助手席シートリフトは少し反転して停止します (→ P. 33)。この場合、乗車の方の手足などが車両に当たっていないことを確認し、障害物を取り除くなどしたあと、ワイヤレスリモコンの電源を入れ、シート上昇スイッチまたはシート下降スイッチを押すと正常な作動に戻ります。

**警告****■ 助手席シートリフトを操作するときは**

→ P. 35

**注意****■ 故障や損傷を防ぐために**

- 断続的にシート下降スイッチまたはシート上昇スイッチを押さないでください。
故障の原因になりますので、スイッチは押し続けてください。
- スwitchの切り替え操作をするときは、約 1 秒以上たってから行ってください。
瞬時に切り替えを行うと、助手席シートリフトが故障するおそれがあります。
- 助手席シートリフトを車外に出したまま放置しないでください。
特に炎天下・雨天・寒冷時などにおいて、カバー類の変形やモーターなどの凍結、錆び付きなどのおそれがあります。

助手席シートリフトを車内に戻すときは

1 操作前に、次の状態を確認する

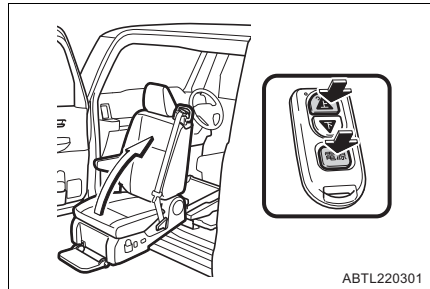
- 助手席シートリフトに乗車している方が正しい乗車姿勢であること (→ P. 27)
- 助手席シートリフトおよび車両の状態 (→ P. 31)
- リヤシートの状態 (→ P. 31)
- 助手席側リヤシート同乗者の安全 (→ P. 34)

2 ワイヤレスリモコンの電源スイッチを押し、動作表示 LED が赤色点灯中 (6 秒以内) にシート上昇スイッチを押し続け、助手席シートリフトを上昇・回転させる

シート昇降スイッチで操作することもできます。(→ P. 43)

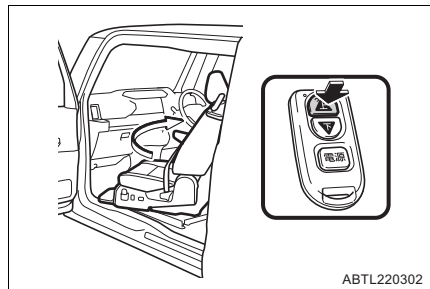
① “ピピッ” (リヤモード) または “ピッ” (フロントモード) とブザーが鳴り、助手席シートリフトが上昇する

- 動作表示 LED が緑色に点滅します。



② 助手席シートリフトが回転しながら車内に戻り、格納位置に移動する

シートが完全に格納され、“ピピピッ”とブザーが鳴ってから、スイッチから指を離します。



3 必要に応じて助手席シートリフトの調整 (→ P. 22) をする

4 助手席ドアおよびスライドドア (リヤモードのみ) を閉める

ただちに走行しないときは、エンジンを停止してください。

 知識

■ ワイヤレスリモコンについて

→ P. 39

■ 挟み込み防止機能について

→ P. 39

■ 助手席シートリフトを車内に格納したときは

助手席シートリフトの格納操作を止めたときにブザー（“ピー…”という連続音）が鳴った場合は、助手席シートリフトの格納が不完全です。（→ P. 33）

助手席ドアを開けてからワイヤレスリモコンの電源を入れ、シート上昇スイッチ（またはシート昇降スイッチの上昇側）を“ピピピッ”と鳴るまで押し続け、格納を完了させてください。

 警告

■ 助手席シートリフトを操作するときは

→ P. 35

■ 助手席シートリフトを車内に格納したときは

→ P. 13

■ 走行する前の安全確認

→ P. 13

 注意

■ 故障を防ぐために

- 断続的にシート上昇スイッチまたはシート下降スイッチを押さないでください。
故障の原因になりますので、スイッチは押し続けてください。
- スwitchの切り替え操作をするときは、約 1 秒以上たってから行ってください。
瞬時に切り替えを行うと、助手席シートリフトが故障するおそれがあります。

シート昇降スイッチでの操作

ワイヤレスリモコンの電池切れ、故障および紛失などにより使用できないときは、シート昇降スイッチを使用して助手席シートリフトの回転および昇降操作を行います。

(助手席シートリフトの作動は、ワイヤレスリモコンで操作した場合と同じです)

シート昇降スイッチによる操作のしかた

2

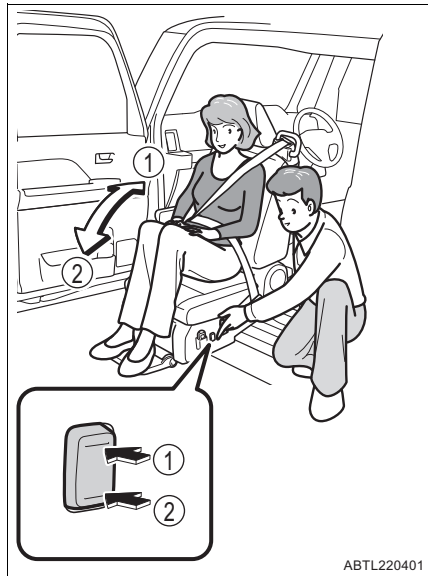
① 助手席ドアおよびスライドドア（リヤモードのみ）を全開にする

② シート昇降スイッチの上昇側または下降側を押し続ける
ブザーが鳴り、助手席シートリフトが作動します。

① 上昇・回転する

② 回転・下降する

- ・スイッチを押している間、助手席シートリフトが作動します。
- ・スイッチから指を離すと、助手席シートリフトはその位置で停止します。



ABTL220401

③ 助手席シートリフトが自動的に停止したらスイッチから指を離す

- ・助手席シートリフトを車外に出すときは、下降が停止し“ピピッ”（リヤモード）または“ピッ”（フロントモード）とブザーが鳴ってから、スイッチから指を離します。
- ・助手席シートリフトを車内に戻すときは、自動的に停止（完全に格納）し “ピピピッ”とブザーが鳴ってから、スイッチから指を離します。

 注意**■ 故障を防ぐために**

- 断続的にシート昇降スイッチを押さないでください。
故障の原因になりますので、スイッチは押し続けてください。
- スwitchの切り替え操作をするときは、約 1 秒以上たってから行ってください。
瞬時に切り替えを行うと、助手席シートリフトが故障するおそれがあります。

助手席ターンシート

3

3-1. 助手席ターンシート

助手席ターンシートの調整 … 46

アームレスト …………… 48

正しい乗車姿勢 …………… 50

3-2. 操作のしかた

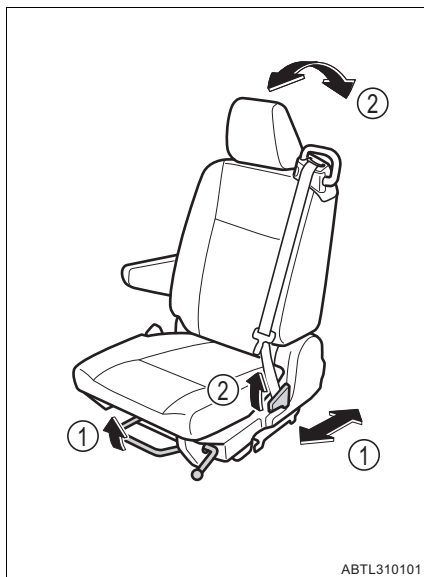
助手席ターンシートの
操作をするときは …………… 51

助手席ターンシートを
車外へ回転させるときは … 54

助手席ターンシートを
車内に戻すときは …………… 57

助手席ターンシートの調整

- ① 前後位置調整
(スライドレバー)
- ② リクライニング調整
(リクライニングレバー)



知識

■ 助手席ターンシートのリクライニング角度について

助手席ターンシートのリクライニング角度は標準車の助手席シートとは異なります。

警告**■ 助手席ターンシート調整について**

- 助手席ターンシートが乗員や荷物に当たらないように注意してください。
- 背もたれにもたれかかったままリクライニング調整をしないでください。背もたれに力が加わっていると、レバー操作が重かったり、突然背もたれが倒れるおそれがあります。
- 走行中は背もたれを必要以上に倒さないでください。

事故のときに体がシートベルトの下にもぐり込み、腹部などに強い圧迫を受けるなど命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



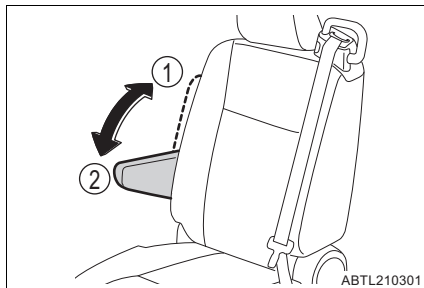
ABTL310102

- 背もたれを戻すときは、背もたれを押さえながらリクライニングレバーを操作してください。
背もたれを押さえずにレバーを操作すると背もたれが急に戻り、けがをするおそれがあります。
- リクライニング調整は必ず走行前に行い、調整後は背もたれを軽くゆすり背もたれが確実に固定されていることを確認してください。
背もたれが固定されていないと走行中に背もたれが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 助手席ドアが閉まっている状態では、回転レバーで助手席ターンシートの回転操作をしないでください。シートが回転して助手席ドアに当たり、けがをしたり、シートおよび助手席ドアを損傷するおそれがあります。

アームレスト

助手席ターンシートの回転操作は、アームレストをいっぱいまで下げた状態でいきます。

- ① 上げる
- ② 下げる



知識

■ シートベルトの着用について

アームレストを上げた状態にすると、シートベルトの着用が容易になります。

警告**■シートベルトを着用するときは**

シートベルトはアームレストの下に通して正しく着用してください。

アームレストにかかった状態で着用すると、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■アームレストについて**

- アームレストを操作するときは、シートとアームレストのすき間に手などを入れないでください。指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。特にお子さまが指などを挟まないように十分注意してください。
- アームレストの上に乗ったり、重いものを載せないでください。アームレストが破損したりけがをするおそれがあります。

正しい乗車姿勢

次のように正しい姿勢で乗車してください。

- ① 背もたれを一旦前に倒して 1 段目の固定位置まで起こし (①)、2 段目から 4 段目のいずれかの固定位置に調整 (②) したあと、ヘッドレストに頭を付けて座る
- ② アームレストを下げ、両腕を助手席ターンシートの内側に収まるように置く
- ③ 両ひざをそろえて助手席ターンシートの内側に収まるように座る
- ④ 足が助手席ターンシートと車両の間に挟まれないように、足の位置やシートのスライド位置を調整する
必要に応じて介助の方が足を支えてください。



⚠ 警告

■乗車のときは

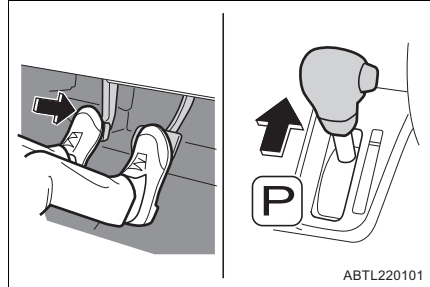
- 助手席ターンシートに深く着座できない方、ひざが曲がらない方の場合は、足が車両に当たり、座った状態でのシートの回転が困難になります。足が当たる場合は、助手席ターンシートを足が当たらなくなるまで後ろにスライドさせてから乗車してください。
- 助手席ターンシート作動時、頭上や手足に注意してください。
頭をドア開口部に当てたり、ひざや腕をインストルメントパネルやドア開口部に当て、けがや思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。(→ P. 16)

助手席ターンシートの操作をするときは

助手席ターンシートは、シートを車外に回転させることができます。格納後はシートを前後左右にゆすり、確実に格納位置で固定されたことを確認してください。

助手席ターンシートを操作する前に

- 1 安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPにする



- 2 助手席ドアを開ける

最初のドアストッパーで止まる位置まで開けると乗降できます。

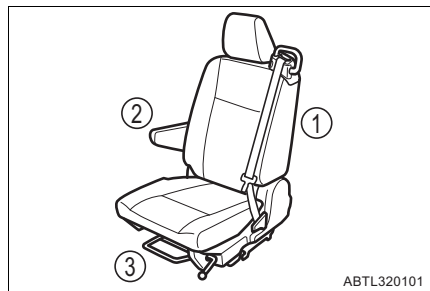
- 3 リヤシートがチルトダウン（→別冊「タント取扱説明書」の『リヤシート』）または格納（→別冊「タントスローパー取扱説明書」の『リヤシート』）されているときは、着座状態にする

スローパー以外は、助手席ターンシートが作動中に当たらないようにリヤシートの位置を調整してください。

- 4 助手席ターンシートの周囲および作動範囲内に、人や荷物がないことを確認する

- 5 助手席ターンシートの回転操作をするときは、シートを次の状態に調整する

- ① 背もたれを調整する（→ P. 50）
- ② アームレストをいっぱいまで下げた位置にする
- ③ 回転時に足が助手席ターンシートと車両の間に挟まれないように、足の位置やシートのスライド位置を調整する（→ P. 50）



6 車両が次の状態になっていることを確認する

- ・グローブボックスが閉まっていること
- ・サンバイザーが格納してあること

⚠ 警告**■チャイルドシートの装着禁止**

→ P. 15

■強風時の助手席ドアについて

→ P. 17

■助手席ターンシートを操作する前に

- 助手席ターンシートに深く着座できない方、ひざや首が曲がらない方の場合、足や頭が車両に当たり、座った状態でのシートの回転が困難になります。足が当たる場合は、助手席ターンシートを足が当たらなくなるまで後ろにスライドさせてから乗車してください。
- 必ず平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にしてください。(→ P. 15)
車いすや助手席ターンシートから転落するなど思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 助手席側リヤシートにチャイルドシートを取り付けたり乗員を乗せたりしないでください。助手席ターンシートに挟まれけがをするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■助手席ターンシートを操作するときは

- 助手席ターンシート乗車の方の頭上や手足に注意してください。
頭をドア開口部に当てたり、ひざや手足など体の一部をインストルメントパネルやドア開口部に当てるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。(→ P. 16)



- 助手席ターンシート作動時、シートの下および周辺、スライドレールの上に手足や荷物を入れないでください。
手足を挟まれけがをしたり、荷物を損傷するおそれがあります。(→ P. 17)
- 介助の方が助手席ターンシートを操作するときは、シート本体を持ってください。
シートの下に手を入れて操作すると、手を挟まれてけがをするおそれがあります。
- 必ずアームレストをいちばん下げた位置で使用してください。
乗車姿勢が不安定になったり、転落のおそれがあります。

 警告

- グローブボックスを閉めてください。
助手席ターンシート乗車の方がけがをしたり、グローブボックスが破損するおそれがあります。
- サンバイザーを格納してください。
サンバイザーに頭やヘッドレストを当てるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- スライドドアを開けて助手席ターンシートを操作するときは、必ずスライドドアを全開にしてください。
スライドドアが全開位置で固定されていないと、スライドドアが不意に動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 助手席ターンシートの回転中にスライドレバーを操作しないでください。
手を挟まれけがをしたり、シートが前後に動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意**■故障・破損などを防ぐために**

- 助手席ターンシートを操作する前に、可動部周辺に障害物がないことを確認してください。
障害物と助手席ターンシートが当たり、破損するおそれがあります。
- 助手席側リヤシートがチルトダウンされた状態（スローパー以外）または格納された状態（スローパー）で、助手席ターンシートを操作しないでください。
助手席ターンシート回転時、助手席側リヤシートに当たり、助手席ターンシートおよび助手席側リヤシートが損傷するおそれがあります。
- 許容荷重（100kg）以内で使用してください。
助手席ターンシートが故障するおそれがあります。
- 助手席ターンシートを操作するときは、必ずリヤシートを指定された状態にしてください。（→ P. 51）
リヤシートと助手席ターンシートが当たり、助手席ターンシートやリヤシートが損傷するおそれがあります。

助手席ターンシートを車外へ回転させるときは

1 操作前に、次の状態を確認する

- 助手席ターンシートに乗車している方が正しい乗車姿勢であること (→ P. 50)
- 助手席ターンシートの状態 (→ P. 51)
- 車両の状態 (→ P. 51)
- リヤシートの状態 (→ P. 51)
- 助手席側リヤシート同乗者の安全 (→ P. 55)

2 助手席ターンシートの前後位置調整後、車外に回転させる

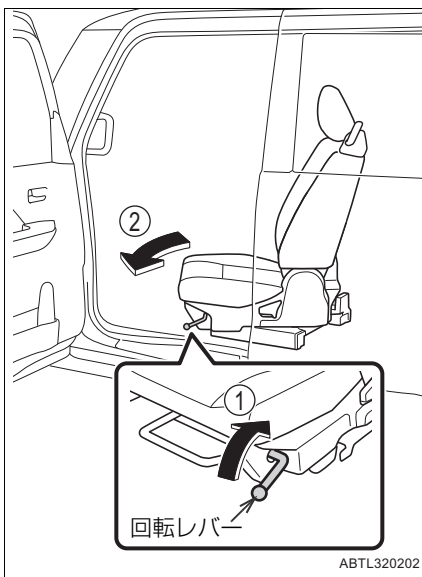
① 回転レバーを引き上げてロックを解除する

シートが動き始めたら、回転レバーを戻します。

② ロックする位置までシートを回転させる

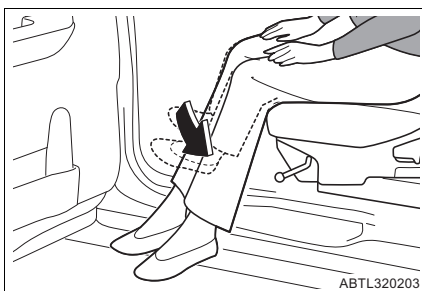
助手席ターンシートは、約 30° 回転します。

シートが回転完了位置でロックしたことを確認します。



3 助手席ターンシート乗車の方の足を車外に出す

必要に応じて介助の方がシート乗車の方の足を外側に出してください。



 知識**■ 助手席ターンシートの回転操作について**

- 助手席ターンシートの前後位置にかかわらず、シートを回転させることができます。(シートの位置によっては、シートがインストルメントパネルに当たって回転できない場合があります)
- 助手席ターンシートを回転させるときは、シート回転方向に力を加えた状態で回転レバーを引かないでください。回転レバーおよびシートの引っかかりが発生し、シートが回転させられません。
- 回転レバーを上げたままだと助手席ターンシートがロックされません。シートが動き始めたら、回転レバーを戻してください。
- 介助の方が助手席ターンシートを車外に回転させるときは、左手を回転レバーに、右手をシートベルト引き出し部のグリップに添えながら回転させると操作が容易になります。

 警告**■ 助手席ターンシートを回転させる前に**

- 助手席側リヤシートにチャイルドシートを取り付けたり、乗員を乗せたりしないでください。助手席ターンシートに挟まれけがをするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 助手席ターンシートは助手席ドアを全開にしなくても乗降可能です。乗降時は助手席ターンシート乗車の方の足が助手席ドアと接触し、けがをしないよう注意して操作してください。(→ P. 15)

■ 助手席ターンシートを回転させるときは

- 助手席ターンシートを勢いよく回転させないでください。
助手席ドアやドア開口部などにシート乗車の方の頭や足が当たり、けがをするおそれがあります。
- 助手席ターンシートが動き始めたら回転レバーを戻し、ロック位置でシート乗車の方の足を車外に出してください。
足を車外に出してからシートを回転させると、けがをするおそれがあります。
- 助手席ターンシート回転時はスライドドアを開閉しないでください。スライドドアに手足を挟まれ、けがをするおそれがあります。
- 助手席ターンシートの回転中にスライドレバーを操作しないでください。
手を挟まれけがをしたり、シートが前後に動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 助手席ターンシートを車体の外側に回転させた状態で乗降を行うときは、シートを軽くゆすり固定されているのを確認してから行ってください。シートが固定されていないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

 注意**■ 故障や損傷を防ぐために**

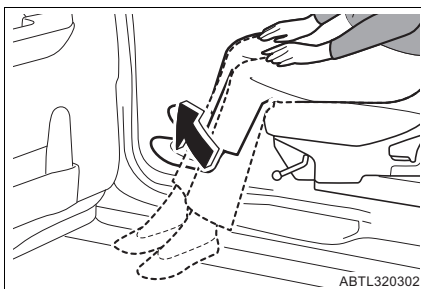
- 助手席ターンシートを車外に回転させたまま放置しないでください。
特に炎天下・雨天・寒冷時などにおいて、カバー類の変形や凍結、錆び付きなどのおそれがあります。
- 助手席ターンシートを操作するときは、必ず助手席側リヤシートを着座可能な状態にしてください。また、助手席ターンシート回転時に当たらないようにスライド位置を調整（スローパー以外）してください。
- 許容荷重（100kg）以内で使用してください。助手席ターンシートが故障するおそれがあります。

助手席ターンシートを車内に戻すときは

- 1 助手席ターンシートが確実にロックされていることを確認する
- 2 操作前に、次の状態を確認する
 - 助手席ドアが開いていること
 - 助手席ターンシートの状態 (→ P. 51)
 - 車両の状態 (→ P. 51)
 - 助手席側リヤシートの状態 (→ P. 51)
 - 助手席側リヤシート同乗者の安全 (→ P. 58)
- 3 助手席ターンシートに正しい乗車姿勢で座る (→ P. 50)

- 4 助手席ターンシート乗車の方の足を車内に入れる

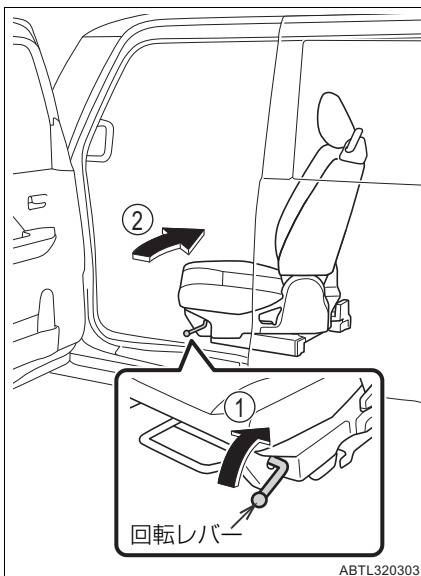
必要に応じて介助の方がシート乗車の方の足を車内に入れてください。



3

- 5 助手席ターンシートを車内に回転させる

- ① 回転レバーを引き上げてロックを解除する
シートが動き始めたら、回転レバーを戻します。
- ② ロックする位置までシートを回転させる
シートが回転完了位置でロックしたことを確認します。



- 6 必要に応じて助手席ターンシートの調整 (→ P. 46) をする
- 7 助手席ドアを閉める

 知識**■ 助手席ターンシートの回転操作について**

- 回転レバーを上げたままだと助手席ターンシートがロックされません。シートが動き始めたら、回転レバーを戻してください。
- 介助の方が助手席ターンシートを車内に回転させるときは、左手を回転レバーに、右手をシートベルト引き出し部のグリップに添えながら回転させると操作が容易になります。

 警告**■ 助手席ターンシートを車内に戻す前に**

- 助手席側リヤシートにチャイルドシートを取り付けたり、乗員を乗せたりしないでください。助手席ターンシートに挟まれけがをするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



- 助手席ターンシートは助手席ドアを全開にしなくても乗降可能です。乗降時は助手席ターンシート乗車の方の足が助手席ドアと接触し、けがをしないよう注意して操作してください。(→ P. 15)

■ 助手席ターンシートを車内に戻すときは

助手席ターンシートを勢いよく回転させないでください。

シート乗車の方がドア開口部などに当たり、けがをするおそれがあります。

■ 助手席ターンシートを車内に戻したときは

→ P. 18

車いす固縛ベルト・ パワークレーン

4

4-1. パワークレーン

車いすの収納前の準備 60

保護カバー 62

パワークレーン 63

4-2. 車いすの収納・固定

車いす固縛ベルト 71

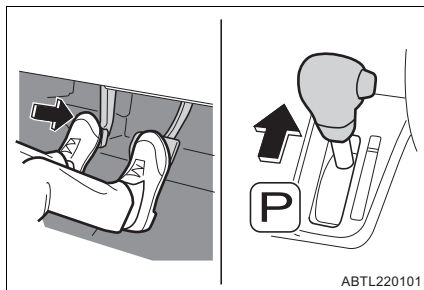
車いすの固定・
解除のしかた 73

車いすの収納前の準備

パワークレーン★は 30kg まで吊り上げることができ、車いすのラゲージルーム内への出し入れを補助します。

車いすを出し入れする前に

- 1 安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする



- 2 バックドアを全開にする
- 3 リヤシートの背もたれをいちばん起こした位置にし、折りたたんだ車いすが収納できるようにスライド位置を調整する（→別冊「タント取扱説明書」の『リヤシート』）

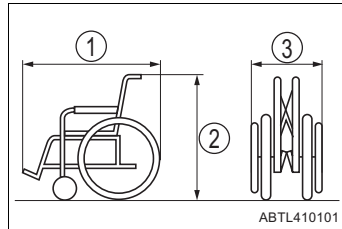
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ 収納可能な車いすのサイズ

収納可能な車いすは次の表のサイズのものとなります。

- ① 車いす全長：1020mm 以下
- ② 車いす全高：870mm 以下
- ③ 車いす全幅（折りたたみ時）：450mm 以下



■ バックドアについて

全開にしないと、車いす収納時、バックドアと車いすが干渉し、車いすの収納が困難になります。

警告

■ 車いすを収納・固定するときは

必ず平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にしてください。（→ P. 10, 15）

車いすが傾いて体や車体に当たるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ 損傷を防ぐために

車いすを収納する前にラゲージルーム内に荷物が無いことを確認してください。車いすの収納が困難になるばかりでなく、荷物や車いすを損傷するおそれがあります。

■ バッテリーあがりを防ぐために

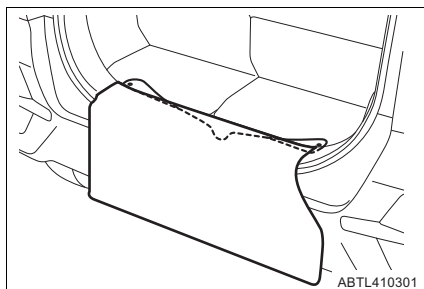
パワークレーン★を長時間操作するときは、エンジンをかけてください。エンジンを停止した状態で長時間操作すると、バッテリーあがりの原因になります。

保護カバー★

パワークレーン★使用時、バンパーの傷付きを防止します。

保護カバーでリヤバンパーを覆います。

保護カバーを使用しないときは、折りたたんでラゲージルームに収納してください。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワークレーン★

パワークレーンは 30kg まで吊り上げることができ、車いすのラゲージルームへの出し入れを補助します。

パワークレーンのセットのしかた

アームを全開にする

- ① レバーを左に倒してロックを解除し、アームを少し前に引き出す
- ② ハンドルを持ち替え、アームを全開にする

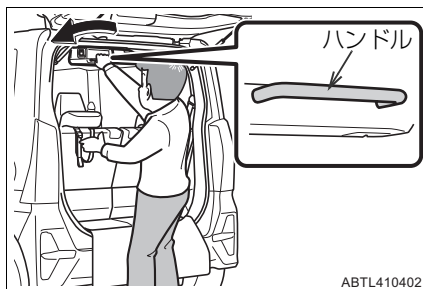
アームが止まるまで開いてください。
(アームは約 90° 開きます)



パワークレーンの格納のしかた

ハンドルを持ってアームを格納する

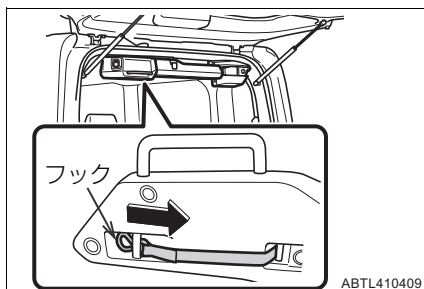
“カチッ” と音がしてアームがロックされるまで操作してください。



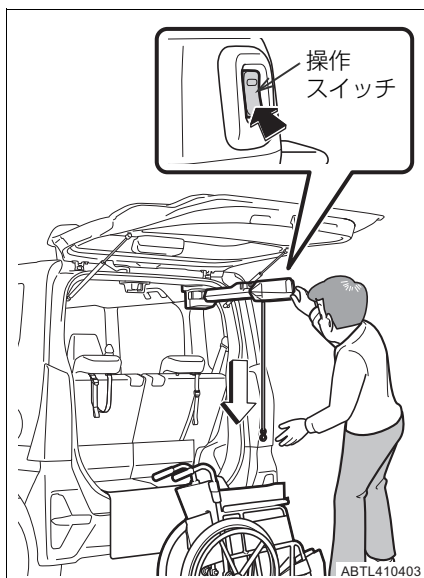
車いすの収納のしかた

車いすをラゲージルーム内に収納するときは、車いす固縛ベルトを P. 71 の「車いすをラゲージルーム内に収納・固定するときは」の状態にしてから行ってください。

- 1 保護カバーでリヤバンパーを覆う (→ P. 62)
- 2 アームを全開にする (→ P. 63)
- 3 吊りベルトのフックを取り出す

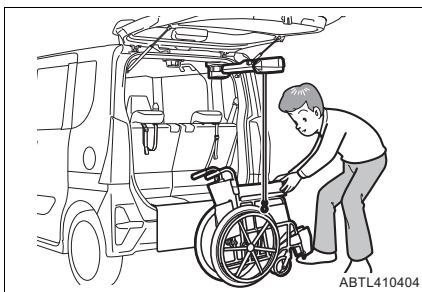


- 4 操作スイッチの下降側を押し、車いすに吊りベルトがかけられる長さまで、吊りベルトを引き出す
 - 十分な長さまで吊りベルトを引き出したら、スイッチから指を離してください。
 - 吊りベルトは引き出し過ぎないでください。(→ P. 67)



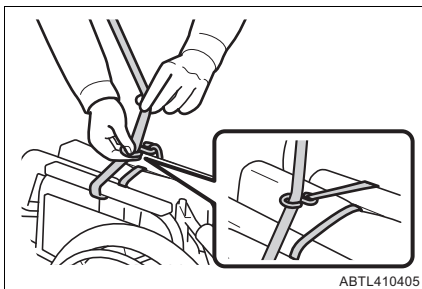
- 5 車いすを折りたたみ、車いすを図のように前輪が車両右側を向くように配置し、車いすのブレーキを両輪ともかける

- 車いすの折りたたみかた、ブレーキのかけかたについては、お使いの車いすの取扱説明書をご覧ください。
- P. 61 の「収納可能な車いすのサイズ」を確認してください。



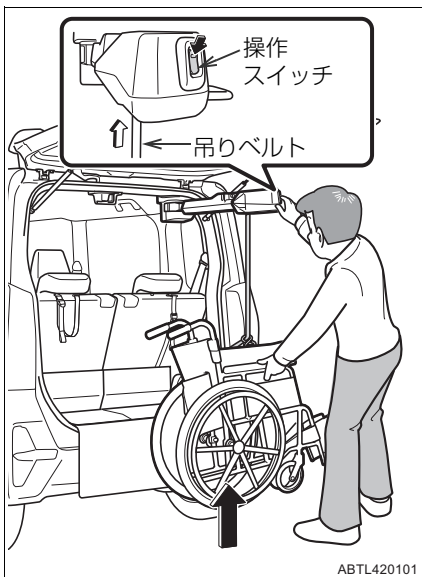
- 6 吊りベルトがねじれないように、車いすに通す

車いすの前後のバランスが取りやすくなるように、吊りベルトをアームレストに通し、吊りベルトにフックを引っかけます。



- 7 操作スイッチの上昇側を押し、吊りベルトを巻き上げ、車いすを吊り上げる

車いすに手を添えながら車いすが回転したり、傾かないように吊り上げてください。

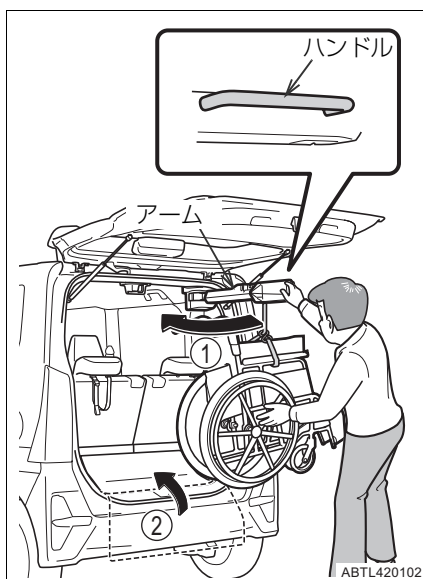


8 車いすをラゲージルーム内に収納する

- ① アームのハンドルを持ち、車いすに手を添えながらアームごと車いすを収納する

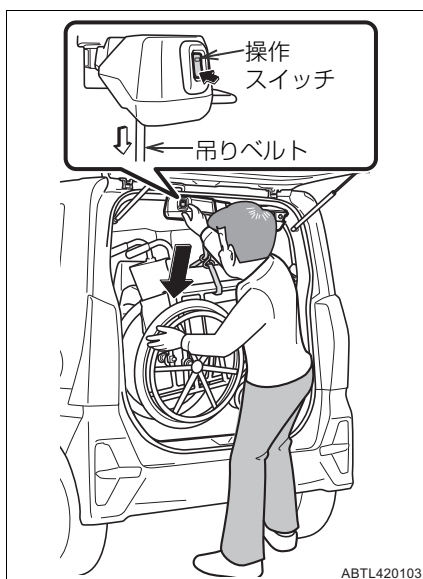
アームを確実にロックしてください
(→ P. 63)

- ② 保護カバーを収納する
(→ P. 62)



9 操作スイッチの下降側を押し、車いすをラゲージルームに降ろす

車いすを降ろしたあと、さらに操作スイッチの下降側を押し続けて吊りベルトをたるませてください。

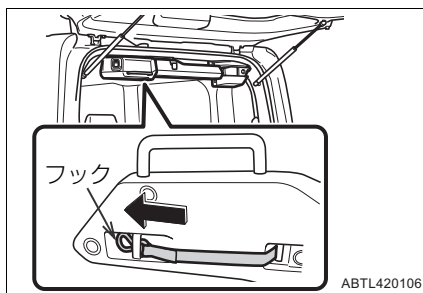


10 吊りベルトを車いすのアームレストから外す

11 操作スイッチの上昇側を押し、吊りベルトを巻き上げる

12 吊りベルトのフックをアームに収納する

フック収納後、吊りベルトがたるんでいたら、操作スイッチの上昇側を押して吊りベルトを収納してください。



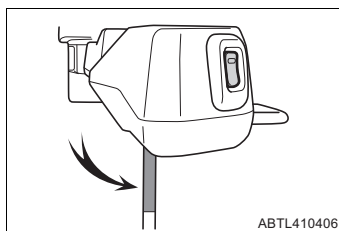
車いすの車外への出しかた

収納したときの逆の手順で行います。

知識

■ 吊りベルトの引き出し目安について

フックが地面に到達する直前まで吊りベルトを引き出すと、ベルトを車いすに引っかける操作が容易になります。ただし、赤色テープが出てきたら、それ以上操作スイッチの下降側を押し続けしないでください。操作スイッチの下降側を押しても吊りベルトが巻き上がる場合、「吊りベルトの出・入が逆の作動をしたときは」の操作をしてください。(→ P. 100)



■ 吊りベルトが引き出しにくいときは

操作スイッチの下降側を押したままフックを持ってベルトを下に引くと、吊りベルトが容易に引き出せます。

■ 車いすについて

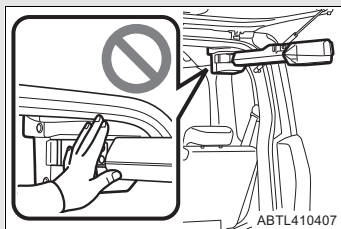
ハンドル、ステップが折りたためる車いすをお使いの場合、それらを折りたたむことにより車いすの収納が容易になります。

警告

■ パワークレーンを使用するときは

- パワークレーンの昇降能力（30kg）以内で使用してください。
- 吊りベルトをアームレストに通す位置は、できるだけ車いす前後のバランスが取れる位置にしてください。
前後のバランスが取れていないと、吊り上げるとき、車いすの姿勢が不安定になり、車いすが体に当たるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- アームを展開・格納するときは、アーム根元の可動部付近に手を触れないでください。指などを挟み、重大な傷害を受けるおそれがあります。



- 坂道や傾斜地を避け、平坦な場所で使用してください。
アームが回転して思わぬけがをするおそれがあります。

- 吊り上げた車いすの下にもぐり込まないでください。
思わぬけがをするおそれがあります。

- アームは必ずハンドルに持ち替えて展開してください。レバーを持ったまま展開すると、展開中のアームが頭部に当たるなどのけがをするおそれがあります。



- アームにぶら下がらないでください。
- 車いすを吊り上げたまま走行しないでください。
- 使用後は確実にアームをロックしてください。

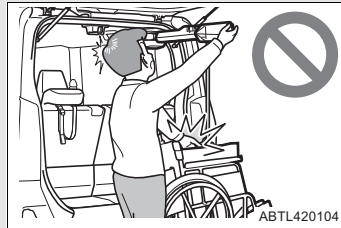
アームをロックしない状態でバックドアを閉めると、バックドアのガラスが割れたり、車両が破損したりしてけがをするおそれがあります。

⚠ 警告

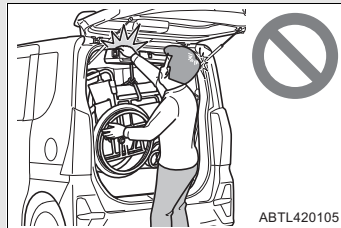
■ 車いすを収納するときは

車いすを収納するときは、頭上や周辺に注意し、車いすに手を添えながら収納してください。また、手などを挟んだり、車いすや車両に体が当たらないように注意してください。

- 車いすに手を添えるとき、車いすの
アームレスト部に指を挟まないよう
に注意してください。



- アームとバックドアの間で手を挟ま
ないように注意してください。



⚠ 注意

■ 故障・損傷を防ぐために

- アームを格納するときは、ハンドルを持ちながらゆっくりと行ってください。
また、アームを展開したときは、確実にロックしたことを確認してから手を
離してください。
- パワークレーンで車いす以外のものを吊り上げないでください。
吊り上げたものが落下して車両を損傷したり、パワークレーンが故障するお
それがあります。
- 車いすを吊り上げる際、P. 61 の「収納可能な車いすのサイズ」の条件を満
たしていることを確認してください。
パワークレーンの故障および車いすの収納・固定が困難になり、車両を傷付
けるおそれがあります。
- 車いすを吊り上げる際、吊りベルトが触れる部位に吊りベルトが傷付くよう
な鋭利な突起物などがないことを確認してください。
吊りベルトが損傷するおそれがあります。

 注意

- 吊りベルトをアームレストにセットする位置は、できるだけ車いすの前後のバランスが取れる位置にしてください。
前後のバランスが取れていないと、吊り上げるとき、車いすの姿勢が不安定になり、車いすや車両を傷付けるおそれがあります。
- 車いすを収納する前に、必ずバックドアが全開になっていることを確認してください。
全開になっていないと、車いす収納時、バックドアとアームが干渉し、損傷するおそれがあります。
- 車いすを収納するときは、アームを車内側に勢いよく戻さないでください。
- 吊りベルトをいっぱいまで巻き上げたら、それ以上操作スイッチの上昇側を押し続けしないでください。
パワークレーンが故障するおそれがあります。
- 昇降能力 30kg を超えないようにしてください。
故障するおそれがあります。
- アームを開いた状態でバックドアを閉めないでください。

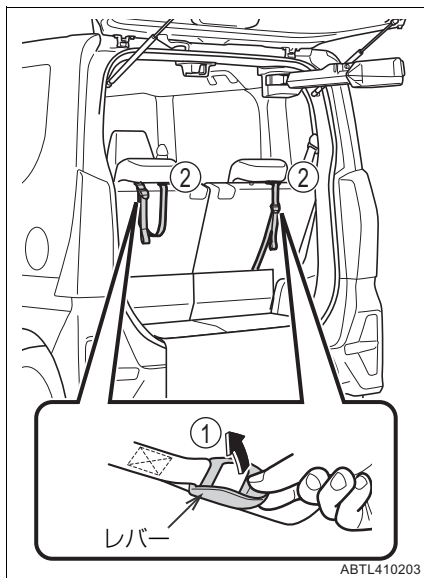
車いす固縛ベルト

ラゲージルーム内に収納した車いすは、車いす固縛ベルトで固定します。車いす固縛ベルトは次のように使用してください。

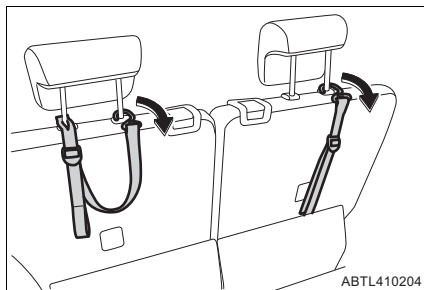
車いすをラゲージルーム内に収納・固定するときは

ラゲージルーム内に何も置かれていない状態にします。

- ① レバーを引き上げて車いす固縛ベルトをゆるめる



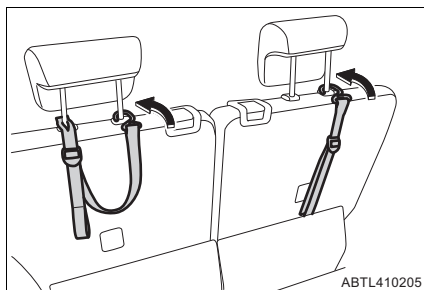
- ② リヤシートのヘッドレストステーから車いす固縛ベルトのフックを外す



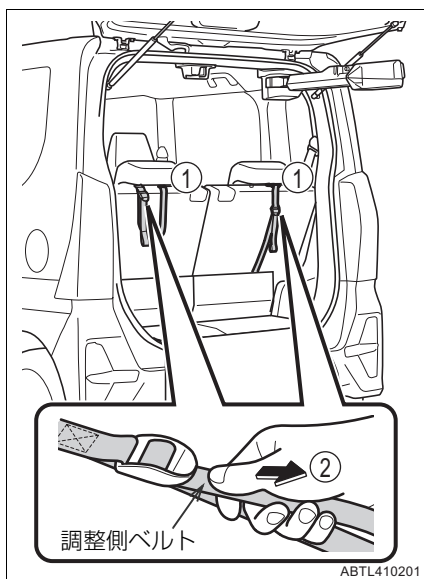
車いす固縛ベルトを使用しないときは

車いす固縛ベルトがラゲージルーム外に出ないようにします。

- ① 車いす固縛ベルトのフックをリヤシートヘッドレストステーに引っかける



- ② 調整側ベルトを引っ張り、フックが走行中に外れないようにする

 **知識****■ 車いす固縛ベルトについて**

車いすを収納・固定しないときは、車いす固縛ベルトをバックドアに挟んだりしないようにするため、それぞれのフックを引っかけてください。

車いすの固定・解除のしかた

車いすの固定・解除については次のように行ってください。

車いすの固定のしかた

車いす固縛ベルトを使用して車いすを固定します。

◆ 車いすを折りたたんで固定（ラゲージルーム）

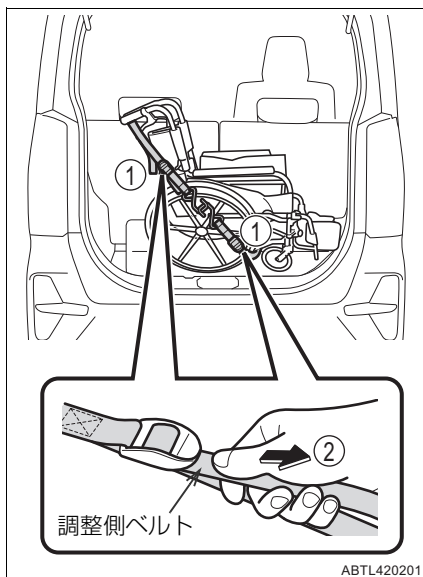
1 車いすを収納する

収納可能な車いすのサイズは、P. 61 を参照してください。

パワークレーンを使用して車いすを収納するときは、P. 64 を参照してください。

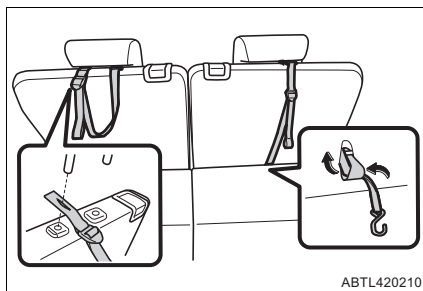
2 車いすを固定する

- ① 車いす固縛ベルトを図のようにたすきがけにする
- ② 調整側ベルトを引っ張り、車いすを確実に固定する（2本とも）

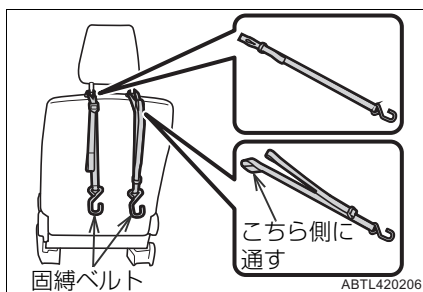


◆ 車いすを折りたたんで固定（運転席後部）

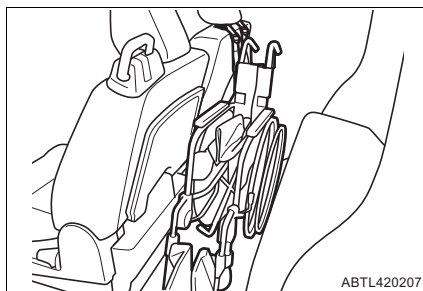
- 1 左側ドア（助手席ドアとスライドドア）を全開にする
- 2 車いすが収納できる位置まで運転席と助手席を前にスライドさせる
- 3 リヤシートを後方いっぱいまでスライドさせる
- 4 リヤシートに取り付けてある車いす固縛ベルトを取り外す（2本とも）



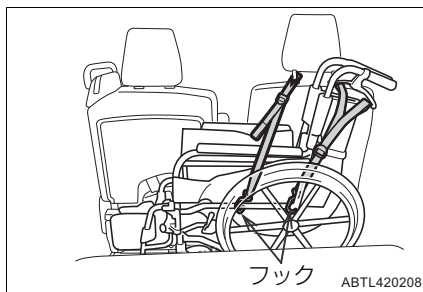
- 5 取り外した車いす固縛ベルトを運転席のヘッドレストに取り付ける（2本とも）



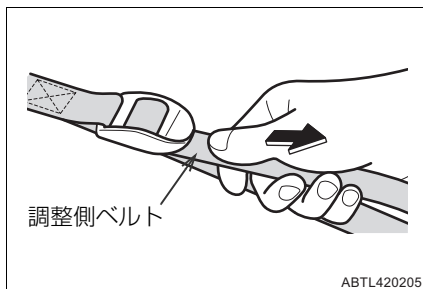
- 6 車いすを折りたたみ、運転席後部に載せる



- 7 車いす固縛ベルトのフックを車いすのフレームに引っかける（2 本とも）



- 8 運転席の前後位置を調整後、調整側ベルトを引っ張り、車いすを背もたれに固定する（2 本とも）

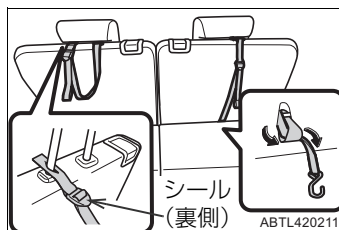


知識

■ 運転席後部に車いすを収納しないときは

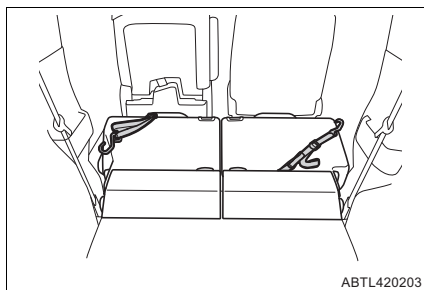
車いす固縛ベルトをリヤシートに戻してください。

シールが貼付されている車いす固縛ベルトを助手席側リヤシートに取り付けてください。

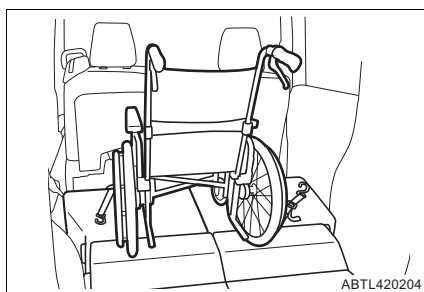


◆ 車いすを折りたたまずに固定

- 1 バックドアを全開にする
- 2 リヤシートの背もたれを倒す
- 3 車いす固縛ベルトのフックを外し、図のように車両の外側に向けて置く

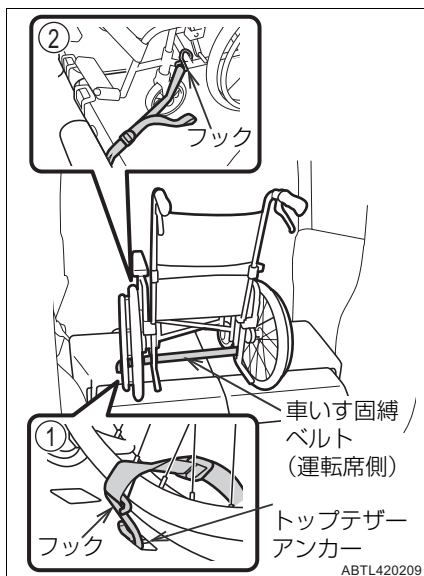


- 4 車いすをリヤシートの背もたれに載せる

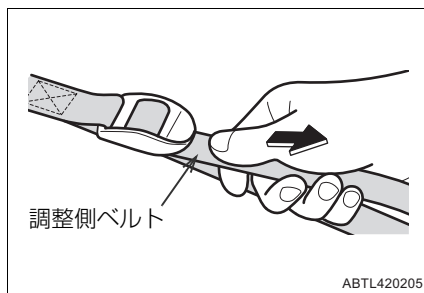


- 5 車いす固縛ベルトのフックをかける

- ① 運転席側の車いす固縛ベルトを車いすの後輪（左右）に通し、助手席側リヤシートのトップテザーアンカーにフックをかける
- ② 助手席側の車いす固縛ベルトのフックを車いすのフレームにかける



- 6 調整側ベルトを引っ張り、車いすを背もたれに固定する(2本とも)



知識

お使いの車いすによっては、車両に収納できない場合があります。

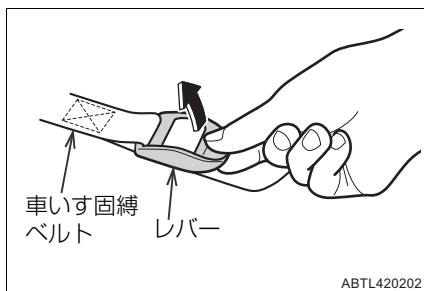
車いすを固定して走行する前に行うこと

- 1 パワークレーン★を格納する (→ P. 63)
- 2 保護カバー★をラゲージルーム内に収納する
- 3 バックドア、または助手席ドアとスライドドア（運転席後部に収納の場合）を閉める

バックドアを閉めるときは、車いすを挟み込まないことおよびパワークレーンや車いすのハンドルなどがリヤウインドウガラスに当たらないことを確認しながら、ゆっくりと閉めてください。

車いすの固定解除のしかた

- 1 車いす固縛ベルトのバックルのレバーを引いてベルトをゆるめる (2 本とも)



- 2 車いすを手で支えながら、車いす固縛ベルトのフックを車いすから取り外す (2 本とも)

 警告**■ 車いすを固定・解除するときは**

車いすに手を添えて、車いすが動かないようにしてください。

車いすが倒れて体に当たるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 車いすを固定したときは

固定後、車いすを前後左右にゆすり確実に固定されていることを確認してください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに車いすが車室内にとび込んだり、走行中に車いす固縛ベルトが車いすから外れたりして、重大な事故につながるおそれがあり危険です。

 注意**■ 損傷を防ぐために**

- 車いすを固定・解除するときは、車いすに手を添えて、車いすが動かないようにしてください。

車いすが倒れ、車いすや車両を損傷するおそれがあります。

- 車いす固縛ベルトにねじれがないこと、鋭利な角部に当たっていないことを確認してください。

車いす固縛ベルトを正しくかけないと、車いす固縛ベルトが切れるおそれがあります。

- 固定後、車いすを前後左右にゆすり確実に固定されていることを確認してください。

バックドアを閉めるときや走行中に車いすがリヤウインドウガラスやスライドドア・シートなどに当たり、損傷するおそれがあります。

- バックドアを閉めるときは、収納した車いすがバックドアに当たらない位置にあることを確認してください。また、保護カバーを挟まないように注意してください。

万一の場合には

5

5-1. 故障かな？とお考えになる前に

ヒューズの交換	82
助手席シートリフトが 動かないときは	85
助手席ターンシートが 動かないときは	86
ワイヤレスリモコンの 電池交換	87

5-2. 緊急時の対処法

助手席シートリフトが 車外に出た状態で 動かないときは	89
助手席ターンシートが 車外に回転させた状態で 動かないときは	97
パワークレーンが 動かないときは	100

ヒューズの交換

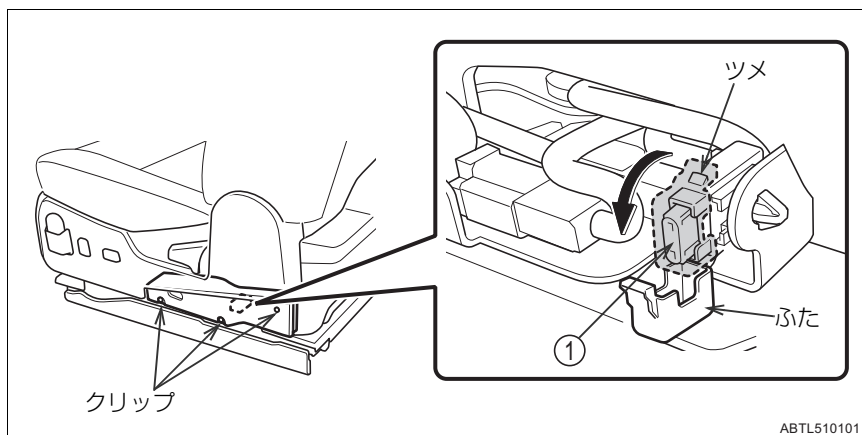
次のようなときは、ヒューズ切れが考えられます。

- 助手席シートリフトのスイッチを操作しても、助手席シートリフトが動かないとき
 - パワークレーンの操作スイッチを操作しても、吊りベルトの巻き上げ・引き出しができないとき
- ヒューズが切れたときは、必ず規定容量のヒューズと交換してください。

ヒューズ位置

■ 助手席シートリフト左側下部

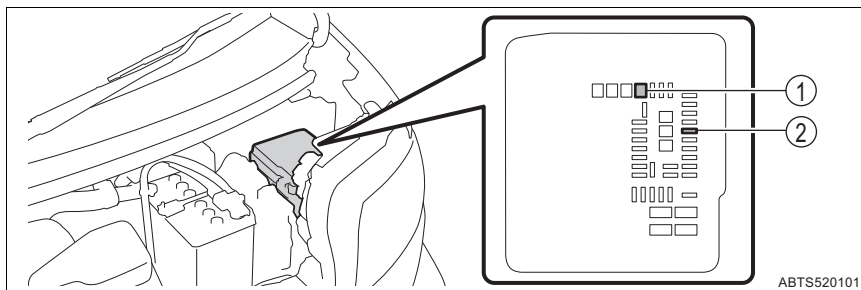
クリップ 3 本を取り外し、カバーを外します。



	アンペア数	使用装置
①	2A	助手席シートリフト

■ エンジンルーム ヒューズボックス

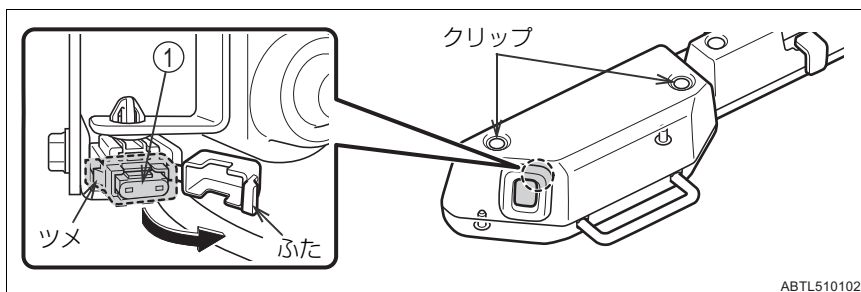
エンジンルーム ヒューズの点検・交換方法については、別冊「タント取扱説明書」の『ヒューズの点検・交換』をお読みください。



	ヒューズ名称	アンペア数	使用装置
①	WELCAB	30A	パワークレーン
②	WELCAB No.2	30A	助手席シートリフト

■ パワークレーン★

クリップ 2 本を取り外し、カバーを外します。



	アンペア数	使用装置
①	2A	パワークレーン (吊りベルト用モーター)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識**■ ヒューズを交換したあとは**

次の場合はダイハツサービス工場で点検を受けてください。

- 交換しても再度ヒューズが切れるとき
- 交換しても助手席シートリフトおよびパワークレーンが動かないとき

 警告**■ お車の故障や火災を防ぐために**

次のことをお守りください。

お守りいただかないとお車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しない
- 必ずダイハツ純正ヒューズか同等品を使用する
- ヒューズやヒューズボックスを改造しない

助手席シートリフトが動かないときは

次の処置をしてください。

作動条件の確認

作動条件をすべて満たしていることを確認してください。(→ P. 39)

ヒューズの点検・交換

作動条件をすべて満たしていても作動しない場合は、ヒューズを点検・交換してください。(→ P. 82)

作動条件の確認およびヒューズの点検・交換をしても動かない場合

ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

修理が完了するまで、絶対に助手席シートリフトを使用しないでください。

■ 車内に入った状態で動かない場合

そのままダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ 車外に出た状態で動かない場合

P. 89 以降の要領で助手席シートリフトを車内に戻し、そのままダイハツサービス工場で点検を受けてください。

助手席ターンシートが動かないときは

次の処置をしてください。

回転レバー・スライドレバーの確認

- 助手席ターンシートの回転レバー操作時、引っかかりなどがなく操作できることを確認してください。
- 複数のレバーを同時に操作していないことを確認してください。

助手席ターンシートの確認

- 助手席ターンシートが回転しないときは、次のことを確認してください。
 - ・シートが前方にスライドし過ぎている（→ P. 55）
- 助手席ターンシートが前後スライドしないときは、シートが車内に完全に回転してロックされていることを確認してください。（→ P. 57）

回転レバー・スライドレバーおよび助手席ターンシートの確認をしても動かない場合

ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

修理が完了するまで、絶対に助手席ターンシートを使用しないでください。

■ 車内に入った状態で動かない場合

そのままダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ 車外に回転させた状態で動かない場合

P. 97 以降の要領で助手席ターンシートを車内に戻し、そのままダイハツサービス工場で点検を受けてください。

ワイレスリモコン★の電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

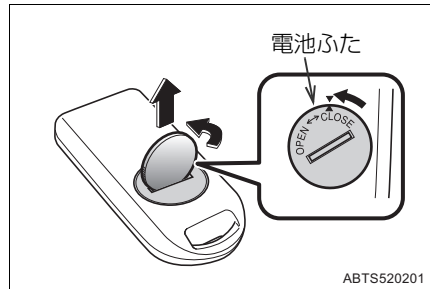
用意するもの

- コインなど、電池ふたの溝に差し込めるもの
- リチウム電池 CR2032

電池交換のしかた

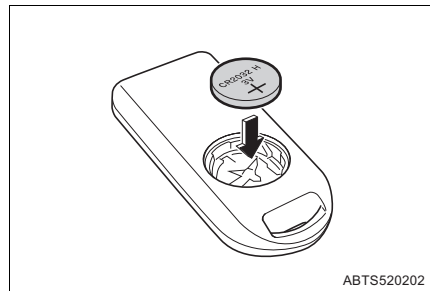
1 電池ふたを外す

コインなどを電池ふたの溝に差し込み、
▲マークが合う位置まで OPEN 側に回し、電池ふたを外します。



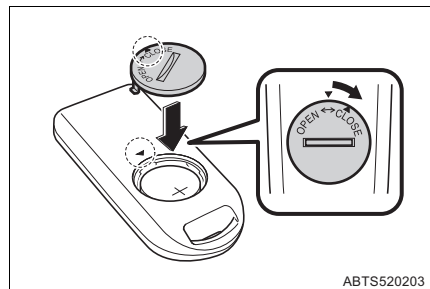
2 電池を交換する

電池を取り出し、新しい電池の+側を上
(電池ふた側) にして挿入します。



3 電池ふたをはめる

- 電池ふたと送信機の▲マークを合わせてはめます。
- コインなどを電池ふたの溝に差し込み、CLOSE 側に回し、電池ふたを締め込みます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

4 作動確認をする

電源スイッチを押し、動作表示 LED が赤色点灯中（6 秒以内）にシート下降スイッチまたはシート上昇スイッチを押して、動作表示 LED が緑色点滅することを確認します。



知識

■ リチウム電池 CR2032 の入手

電池はダイハツサービス工場、時計店、カメラ店などで購入できます。



警告

■ 取り外した部品や電池について

お子さまに触れさせないでください。

部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



注意

■ 交換後、正常に機能させるために

次のことをお守りください。

- 電池交換時に部品を紛失しない
- 電池ふたを曲げたりしない
- 電池以外の部品に触れたり、動かしたりしない
- 電池の＋極と－極は必ず正しい向きにして挿入する
- 電池挿入部の電極を曲げたり、ゴミや油などを付着させない

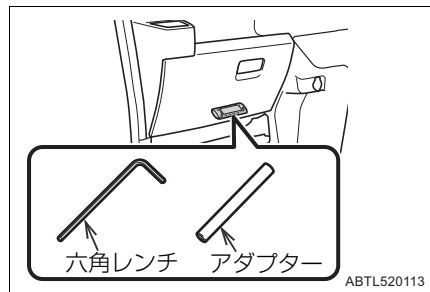
助手席シートリフトが車外に出た状態で動かないときは

万一、助手席シートリフトが回転または昇降途中で動かなくなってしまったときは、助手席ドアを閉めることができません。

ヒューズを点検・交換（→ P. 82）しても動かない場合は、この項目に記載されている要領で車内に格納したあとに、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

使用工具について

助手席シートリフトを手動で車内に戻すときは、グローブボックスに入っている六角レンチとアダプターを使用します。



助手席シートリフトを車内に格納する前に

助手席シートリフトに座っている乗員がいる場合は、乗員を安全な場所に移動させてから作業を行ってください。

助手席シートリフトが上昇するが下降しないとき

シートリフトに異常が発生して、上昇はするが下降しなくなったときは、異常を解除させるために、次の方法で車内に格納させてください。

下降操作が可能になります。

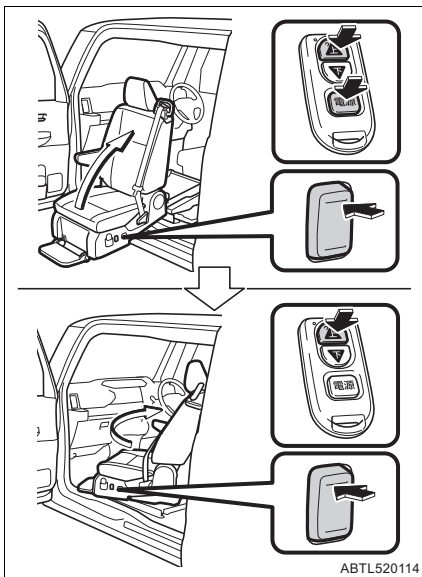
◆ リヤ側からシートが車外に出ているとき

1 駐車ブレーキがかかっていることと、シフトレバーがPで、エンジンが停止していることを確認する

2 助手席ドア、スライドドアが全開になっていることを確認する

3 ワイヤレスリモコンの電源スイッチを押してシート上昇スイッチ（またはシート昇降スイッチの上昇側）を押し続け、シートを格納する

シートが格納されると、ブザーが鳴りますので、スイッチから指を離します。



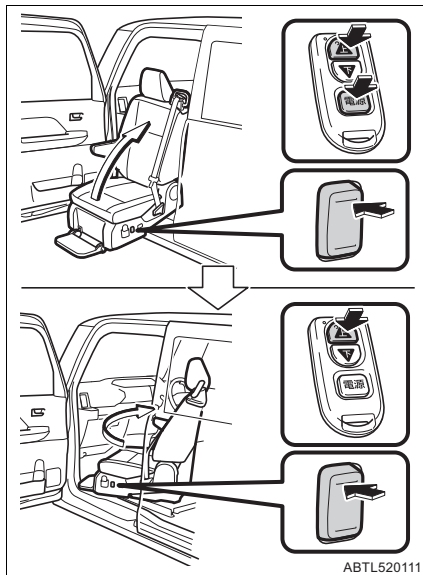
4 ワイヤレスリモコンの電源スイッチを押してシート下降スイッチ（またはシート昇降スイッチの下降側）を押し、助手席シートリフトが下降することを確認する

助手席シートリフトが下降しないときは、ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

◆ フロント側からシートが車外に出ているとき

- 1 駐車ブレーキがかかっていることと、シフトレバーがPで、エンジンが停止していることを確認する
- 2 助手席ドアが全開になっていることを確認する

- 3 ワイヤレスリモコンの電源スイッチを押してシート上昇スイッチ（または昇降スイッチの上昇側）を押し続け、シートを格納する
シートが格納されると、ブザーが鳴りますので、スイッチから指を離します。



- 4 ワイヤレスリモコンの電源スイッチを押してシート下降スイッチ（またはシート昇降スイッチの下降側）を押し、助手席シートリフトが下降することを確認する

助手席シートリフトが下降しないときは、ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

助手席シートリフトが動かないとき

助手席シートリフトが動かないときは、次の手順でシートを手動で車内に戻し、ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ 助手席シートリフトを手動で格納させるときは

① 操作前に次の状態を確認する

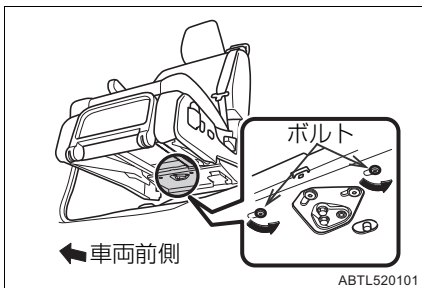
- ・ 駐車ブレーキがかかっている
- ・ シフトレバーがPになっている
- ・ エンジンが停止している
- ・ 助手席ドア、スライドドアが全開になっている

② グローブボックスから助手席シートリフト非常用工具の六角レンチを取り出す

③ シート底面にあるボルト(2本)を六角レンチで反時計回りにゆるめる

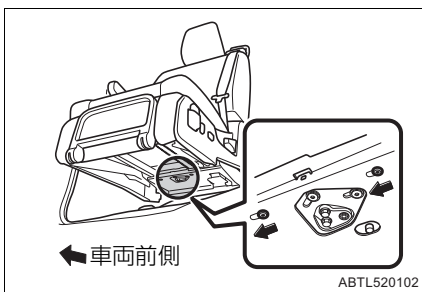
六角レンチにアダプターを差し込んで使用します。

ボルトは約 1 回転回します。



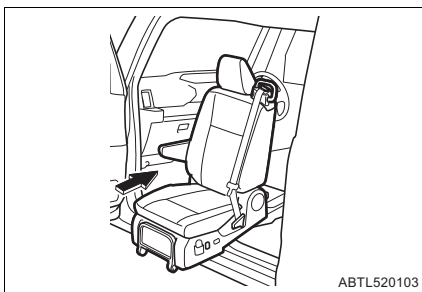
④ ゆるめたボルトを車両前側にいっぱいまでスライドさせてギヤのかみ合わせを外したあと、どちらかのボルトを軽く締め付ける

スライドさせにくいときは、手動でシートを少し上昇させながらスライドさせてください。

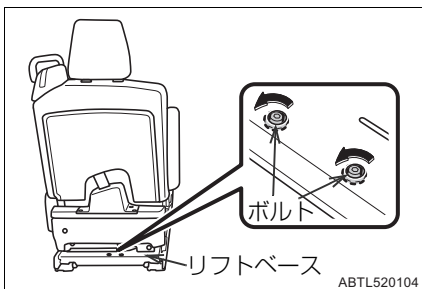


- 5 シートが止まる位置いっぱいまで手で上昇させて、車内側へ確実に戻す

シートをいっぱいまで上昇させたら、さらに力を加えて室内側へ押してください。

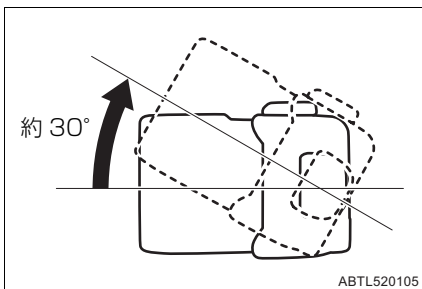


- 6 六角レンチでリフトベースのボルト(2本)を反時計回りにゆるめる
ボルトは約 1 回転回します。



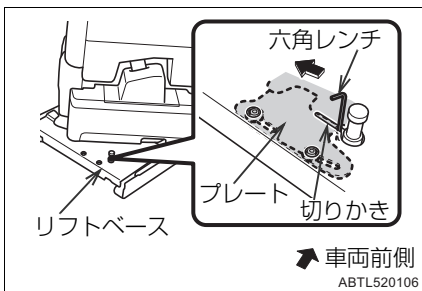
- 7 シートを手動でゆっくりと車内側に約 30° 回転させる

シートが車内へ回転しないときは、再度リフトベースのボルトをゆるめ、ギヤのかみ合わせを外してください。

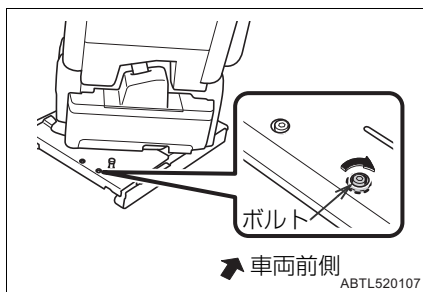


- 8 リフトベースの車両後側にある切りかきに六角レンチを上から差し込んで、内部にあるプレートを手で左にいっぱいまでスライドさせる

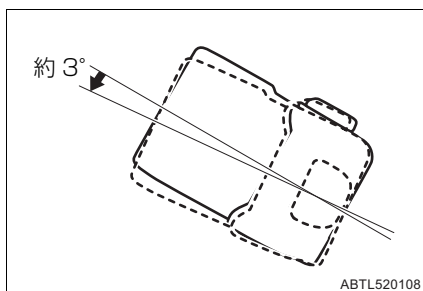
- プレートを押し込み、ギヤをかみ合わせます。
- プレートが左いっぱいまでスライドしないときは、シートを左右に軽くゆすりながらスライドさせてください。



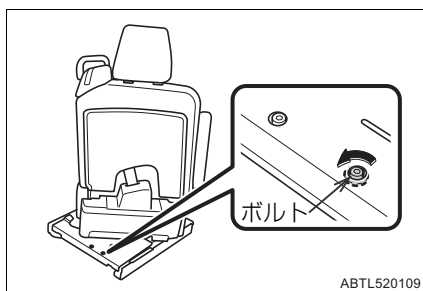
- 9 ボルトを1本だけ時計回りに締め付けて固定する



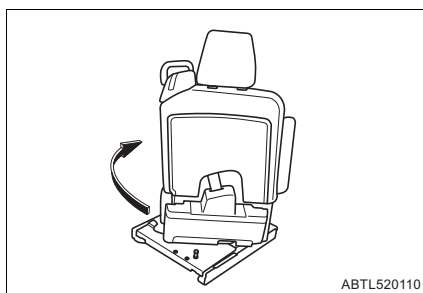
- 10 一旦シートを車外側（格納方向と逆）に少し回転させる
シートが回転する角度は、約 3° です。



- 11 手順9で締め付けたボルト1本を
反時計回りに再度ゆるめる



- 12 シートを“カチッ”と音がする位置
まで手で車内側に回転させる
シートを軽くゆすり、固定されたことを
確認します。



- 13 助手席ドア、スライドドアを閉める

シートが通常の格納完了位置ではない場合には、助手席ドアを閉めるとブザーが鳴ります。

知識

■ ボルトのスライド操作について

- どちらか片方のボルトをスライドさせると 2 本同時にスライドします。
- 六角レンチをボルトに取り付けた状態で操作すると、スライドさせやすくなります。
- 車内側に戻す途中で止まったときは、手順 **5** からやり直してください。

■ 助手席シートリフトが固定されないときは

一旦シートを車外側へ回転させ、再度“カチッ”と音がするまで車内側に回転させてください。

それでも固定されない場合は、手順 **5** からやり直してください。

警告

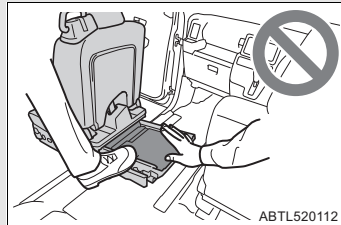
■ 修理が完了するまでは

助手席シートリフトに座ったり、ものを載せたりしないでください。シートが固定されていないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 助手席シートリフトを手動で格納するときは

- 助手席シートリフト格納スペースに手や足を入れないでください。

助手席シートリフト可動部などで手や足などを挟み、けがをするおそれがあります。



- 助手席シートリフトに座っている乗員がいる場合は、乗員を安全な場所へ移動させてから作業を行ってください。
- ボルトをゆるめるときに指先や手などをけがしないように、十分注意してください。
- 助手席シートリフトが自重で下がらないように、シートを手で保持しながら操作をしてください。
シートが急に下降して、けがをするおそれがあります。

 警告**■ 助手席シートリフトを手動で車内に収納したあとは**

- 必ずシートを軽くゆすり、確実に固定されたことを確認してください。
シートが固定されていないと走行中にシートが動き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
点検・修理が完了するまでは、助手席シートリフトに座らないでください。
- 工具を使用したあとは、所定の場所に確実に保管してください。
車室内などに放置すると、急ブレーキをかけたときや、衝突したときなどに、工具が飛んできて乗員に当たるなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

 注意**■ 助手席シートリフトを手動で格納するときは**

- 必ずゆっくりと車内側に戻してください。シートを勢いよく車内側へ戻すと、ギヤなどが干渉してシートが破損するおそれがあります。
- ゆるめる回数の指定があるボルトは、必要以上にゆるめないでください。
外れて紛失したり、シートを収納できなくなるおそれがあります。

■ 損傷を防ぐために

P. 90 の「助手席シートリフトが上昇するが下降しないとき」および P. 92 の「助手席シートリフトが動かないとき」の操作をするときは、次のことを必ずお守りください。

- 必ずシートの背もたれを調整して、ヘッドレストをいちばん下げた状態にしてください。
また、フットレストはいちばん上げた位置にしてください。
- グローブボックスを閉じてください。助手席シートリフトとグローブボックスが当たり、破損するおそれがあります。

助手席ターンシートが車外に回転させた状態で動かないときは

回転レバーを操作しても助手席ターンシートが動かない場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

- 万一、助手席ターンシートが格納できなくなったときは、助手席ドアを閉めることができません。この項目に記載されている要領で車内に格納してください。
- 助手席ターンシートに座っている乗員がいる場合は、乗員を安全な場所に移動させてから作業を行ってください。

使用工具について

この項目の操作をするときは、ホイールナットレンチを使用します。

(ホイールナットレンチの搭載位置

→別冊「タント取扱説明書」の『タイヤの交換』、別冊「タントスローパー取扱説明書」の『工具・ジャッキの取り出し』)

助手席ターンシートを車内に戻す前に

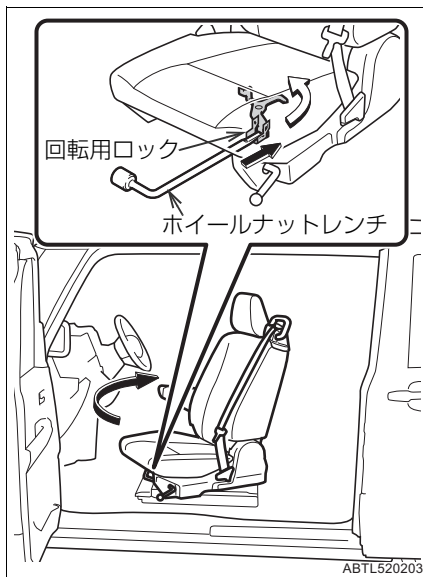
操作前に、次の状態を確認してください。

- 助手席ドアが全開になっていること
- リヤシートに乗員がいないこと
- 助手席側リヤシートの前後位置がいちばん後ろになっていること
(スローパー以外)
- リヤシートが格納されていないこと (スローパー)
- グローブボックスが閉まっていること
- 助手席ターンシートの下および周辺に荷物などが置かれていないこと
- サンバイザーが格納されていること

助手席ターンシートの前後スライドはできるが格納できなくなったとき

ホイールナットレンチで助手席ターンシートの回転用ロックを押しながら、シートをロック位置まで回転させる

- ① 図の位置にホイールナットレンチを挿入し、回転用ロックを押してロックを解除する
- ② 回転用ロックを押しながら、助手席ターンシートを回転させる
回転が始まったら、ホイールナットレンチを引き抜きます。

 **知識****■ 回転用ロックについて**

ホイールナットレンチで回転用ロックを押しながら、助手席ターンシートを回転させてください。シートの回転が始まる前にホイールナットレンチを引き抜くと、シートを回転させることができません。

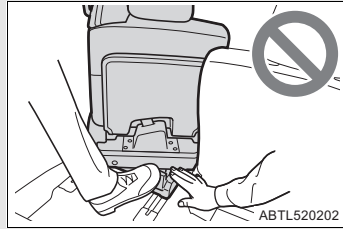
⚠ 警告**■ 修理が完了するまでは**

助手席ターンシートに座ったり、ものを載せたりしないでください。シートが固定されていないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ この項目の操作をするときは

- 助手席ターンシート格納スペースに手や足を入れないでください。

シート可動部などで手や足などを挟み、けがをするおそれがあります。



- 工具を使用したあとは、所定の場所に確実に保管してください。

車室内などに放置すると、急ブレーキをかけたときや、衝突したときなどに、工具が飛んできて乗員に当たるなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意**■ 破損・損傷を防ぐために**

助手席ターンシートを車内に戻すときは、次のことをお守りください。

お守りいただかないとシートやものが破損・損傷するおそれがあります。

- グローブボックスを閉める
- シートの下および周辺に荷物などが置かれた状態で操作しない
- サンバイザーが格納されていること

パワークレーン★が動かないときは

次の処置をしてください。

ヒューズの点検・交換

ヒューズを点検・交換してください。(→ P. 83)

ヒューズの点検・交換をしても動かない場合

ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

吊りベルトの出・入が逆の作動をしたときは

吊りベルトを引き出すとき、赤色テープが出てきたあとも、さらに操作スイッチの下降側を押し続けると、そのあと、吊りベルトが逆転して巻き上がり始めます。

赤色テープは吊りベルトの終端であることを示します。

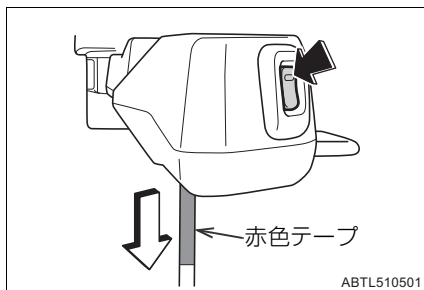
操作スイッチの上昇側を押し続けると、吊りベルトが引き出されます。

■ 正常作動への戻し方

操作スイッチの上昇側を押し続け、一度吊りベルトを出しきる

吊りベルトが巻き上がり始めたら、正常な状態になります。

スイッチ操作方向と吊りベルトの動く方向が同じになったら正常です。



点検・整備項目**6****6-1. 点検・整備項目**

定期点検整備 102

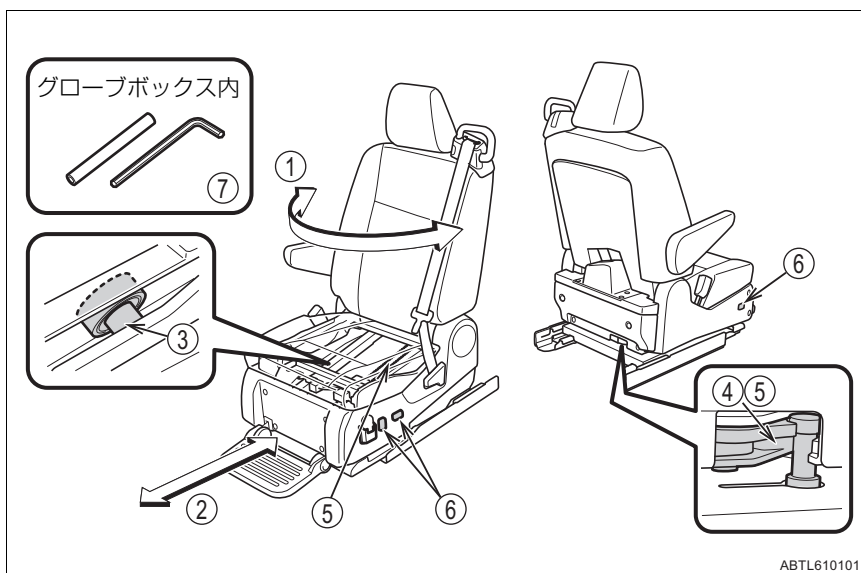
定期点検整備

故障を減らして長く大切に使うために、定期点検整備をお願いします。
点検結果を記録する際には、巻末の記録簿を A4 サイズにコピーして使用してください。

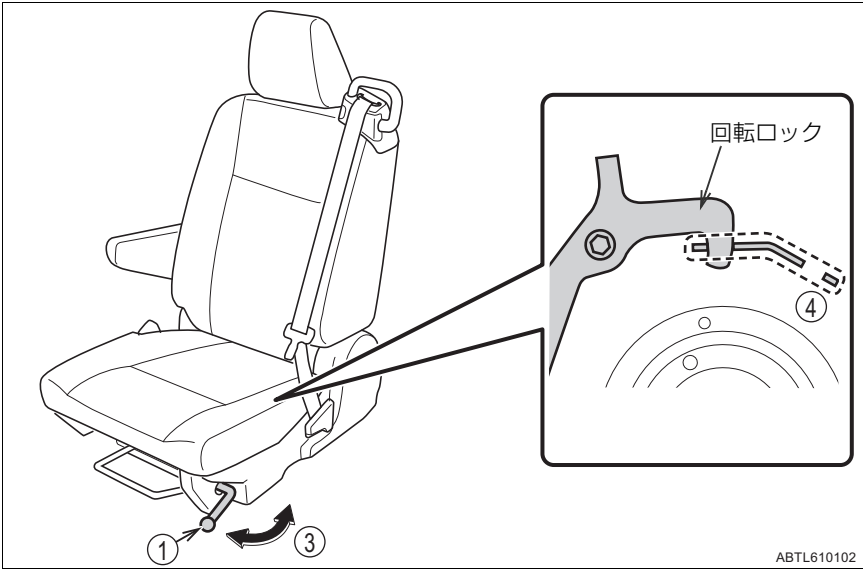
空欄については点検および交換の必要はありません。

点検整備項目	点検時期			交換時期 (年)	備考	
	日常点検	自家用車				
		12か月ごと	24か月ごと			
助手席シートリフト						
①	回転作動	○		○		スムーズさ
②	スライド（前後）作動	○		○		スムーズさ
	スライド（昇降）作動	○		○		スムーズさ
③	ローラー部		○	○		スムーズさ
④	ロック状態	○		○		がた（異音）がないこと
⑤	給油脂状態（※） （リフトレール、ギヤ部、回転ロック部、グリースアップ）			○		がた（異音）がないこと
⑥	スイッチ作動	○		○		引っかかりがないこと
⑦	非常用工具の搭載	○		○		

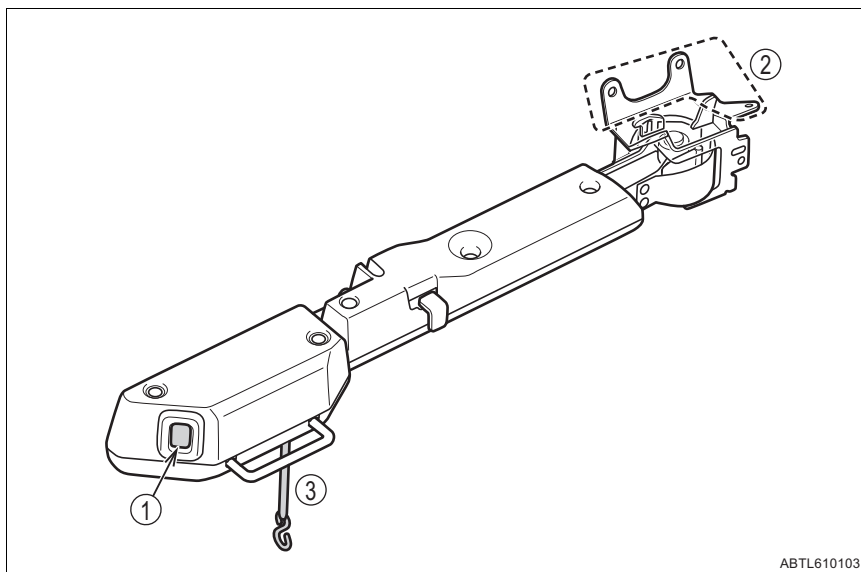
※ グリースアップは異音やリフトのがた付きが発生したときには随時注油ください。



点検整備項目	点検時期			交換時期 (年)	備考
	日常点検	自家用車			
		12 か 月 ご と	24 か 月 ご と		
助手席ターンシート					
①	回転レバーの解除、 操作状態		○		操作時に引っかかりがなく ロック解除出来ること
②	ロック状態		○		著しいがたがないこと
③	回転作動	○		○	スムーズさ
④	給油脂状態 (回転ロック)			○	異音がないこと



点検整備項目	点検時期			交換時期 (年)	備考
	日常点検	自家用車			
		12 か月ごと	24 か月ごと		
パワークレーン★					
①	スイッチ作動		○		作動不良、引っかかりがないこと
②	パワークレーン取り付け部		○		ゆるみ・がた・損傷がないこと
③	吊りベルト	○			傷・ほつれがないこと



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは （症状別さくいん）	108
お車から音が鳴ったときは （音さくいん）	111
五十音順さくいん	112

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、ダイハツサービス工場にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

故障かな？と思ったら



ブザーが鳴りだした

- 「お車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 111）をご確認ください。

助手席シートリフトについて



助手席シートリフトの回転・昇降操作ができない

- 助手席ドアまたは左側スライドドアは開いていますか？（リヤモード）（→ P. 31, 39）
- 助手席ドアは開いていますか？（フロントモード）（→ P. 31, 39）
- シフトレバーがPになっていますか？（→ P. 31, 39）



助手席シートリフトが少し反転して停止した

- 助手席シートリフト作動中、障害物に当たっていませんか？（→ P. 39）



助手席シートリフトの前後位置調整ができない

- 助手席シートリフトは車内に完全格納されていますか？（→ P. 22, 41）

**助手席シートリフトが動かない、または作動中に停止した**

- 断続的にスイッチを押していませんか？（→ P. 40, 44）
- ヒューズが切れていませんか？（→ P. 82）
- 助手席シートリフト操作中にバッテリーを外していませんか？
助手席シートリフト操作中にバッテリーを外したときは、シートの格納操作が必要になります。（→ P. 90）

**助手席シートリフトが動かない（ワイヤレスリモコンで操作している場合）**

- 車両から離れ過ぎていませんか？
- ヒューズが切れていませんか？（→ P. 82）
- 電源スイッチを押してから 6 秒以内（動作表示 LED が赤色点灯中）に、シート下降スイッチまたはシート上昇スイッチを押していますか？（→ P. 37, 41）

**ワイヤレスリモコンの作動可能範囲が著しく短くなったり、動作表示 LED が点灯・点滅しなくなった**

- 電池を交換してください。（→ P. 87）

助手席ターンシートについて



助手席ターンシートが回転できない・途中で停止する

- 助手席側リヤシートが折りたたまれていませんか？（→ P. 51）
- 助手席ターンシートが前方にスライドし過ぎていませんか？（→ P. 54）
- 助手席ターンシート回転時の手の位置・力のかけ方は合っていますか？（→ P. 54, 58）



助手席ターンシートがロックしない

- 回転レバーを操作したまま助手席ターンシートを回転させていませんか？（→ P. 55, 58）



回転レバーが固くて操作できない

- シート回転方向に力を加えた状態で回転レバーを引いていませんか？（→ P. 55）

パワークレーン★について



パワークレーンが動かない

- ヒューズが切れていませんか？（→ P. 83）



吊りベルトの出・入が逆の動きをした

- 吊りベルトを引き出し過ぎていませんか？（→ P. 100）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

お車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、お車の状態や誤操作などをお知らせするためにブザーが鳴ります。

助手席シートリフト操作時

状況	原因	詳細
ワイヤレスリモコンまたはシート昇降スイッチを押したとき	助手席シートリフト作動開始	P. 33 P. 37 P. 41 P. 43
	助手席シートリフトが車外に下降完了	P. 33 P. 37 P. 43
	助手席シートリフトが車内に格納完了	P. 33 P. 41 P. 43
ワイヤレスリモコンまたはシート昇降スイッチを押しても助手席シートリフトが動かないとき	助手席ドア、スライドドアを閉めたままシート下降スイッチを押している	P. 33 P. 39
助手席シートリフトが少し反転して停止したとき	助手席シートリフトが作動中、障害物に当たるなど助手席シートリフトの作動が妨げられた	P. 33 P. 39

助手席ドア開閉時

状況	原因	詳細
助手席ドアを開閉したとき	助手席シートリフトの格納が不完全	P. 33 P. 39

五十音順さくいん

あ

安全にお使いいただくために	
車いす・パワークレーンの	
固定について	19
助手席シートリフトについて	10
助手席ターンシートについて	15
アームレスト	24

き

緊急時の対処法	
助手席シートリフトが	
車外に出た状態で	
動かないときは	89

く

車いす	
固定・解除のしかた	73
車外への出しかた	67
収納・固定のしかた	71
収納前の準備	60
車いす固縛ベルト	71
固定解除のしかた	78
固定して走行する前に	
行うこと	78
固定のしかた	73
保護カバーの使いかた	62

こ

故障かな？とお考えになる前に	
助手席シートリフトが	
動かないときは	85
助手席ターンシートが	
動かないときは	86
パワークレーンが	
動かないときは	100
ワイヤレスリモコンの	
電池交換	87

し

収納可能な車いすのサイズ	61
使用工具について	89
助手席シートリフト	
アームレスト	24
動かないときは	85
車外に出すときは	37
車外に出た状態で	
動かないときは	89
車内に戻すときは	41
手動で車内に格納させる	
ときは	92
上昇するが下降しないとき	90
シート昇降スイッチでの	
操作	43
シート前後スライド	
スイッチ	22
シートリクライニング	
レバー	22
操作をするときは	31
正しい乗車姿勢	27
調整	22
フットレスト	26
助手席ターンシート	
アームレスト	48
動かないときは	86
回転レバー	54, 57
車外に回転させた状態で	
動かないときは	97
車外へ回転させるときは	54
車内に戻すときは	57
スライドレバー	46
前後スライドはできるが格納	
できなくなったとき	98
操作をするときは	51
正しい乗車姿勢	50
調整	46

リクライニングレバー	46
シート昇降位置切替スイッチ	38
シート昇降スイッチ	43
シート前後スライドスイッチ	22
シートリクライニングレバー	22

た

正しい乗車姿勢	27, 50
---------	--------

て

点検・整備項目	
定期点検整備	102

は

パワークレーン	
アーム	63
動かないときは	100
格納のしかた	63
車いすの収納のしかた	64
セットのしかた	63
操作スイッチ	64
吊りベルト	64
吊りベルトの出・入が	
逆の作動をしたときは	100

ひ

ヒューズ	
エンジンルーム	83
助手席シートリフト左側下部	82
パワークレーン	83

ふ

ブザー	33
フットレスト	26

ほ

保護カバー	62
-------	----

り

リモコンポケット	28
----------	----

わ

ワイヤレスリモコン	28
各部の名称	28
電池交換	87
リモコンポケット	28

定期点検整備記録簿

分解整備記録簿

該当なし / 異常なし	✓	交換	×	締付	T	清掃	C
調整	A	修理	△	分解	○	給油	L
						省略	P

点検の結果および整備の概要

■ タントシートリフトの点検
《リフト部》

- 回転作動
- スライド (前後) 作動
- スライド (昇降) 作動
- ローラー部
- ロック状態
- 給油脂状態
- スイッチ作動
- 非常用工具の搭載

■ パワークレーン点検 (装備車)

- スイッチ作動
- 作動不良、引っかかりがないこと
- パワークレーン取付部
- (ゆるみ、がた、損傷がないこと)
- 吊りベルトの傷、ほつれがないこと

■ その他必要となった点検整備の内容および主な交換部品

型 式	タント シートリフト		
架 装 物 名			
車 体 No.			
お 客 様 の 業 種 ・ 積 載 物	架 装	装 置	メーカカー名
依頼者の氏名または名称及び住所			
氏名または名称			
住所			

メンテナンスに関するアドバイス			
型 式		初年度登録または初年度検査年	
自動車登録番号または車番(左記の無い車種にあっては、車台番号)			
自動車分解整備事業者の氏名または名称および事業場の所在地 氏名または名称			
事業場の所在地			
認証または指定番号		点検の年月日	
		年 月 日	
点検時の総走行距離		整備を完了した年月日	
		年 月 日	
		km	
整備主任者の氏名			

定期点検整備記録簿

分解整備記録簿

該当なし / 異常なし	✓	交換	×	締付	T	清掃	C
調整	A	修理	△	分解	○	給油	L
							P

点検の結果および整備の概要

■ タント ターンシートの点検

- 回転レバーの解除、操作状態
(操作時に引っかかりがなくロック解除できる)
- ロック状態 (著しいがたがないこと)
- 回転作動 (スムーズさ)
- 回転ロックの給油脂状態 (異音がないこと)

■ パワークレーン点検

- スイッチ作動
(作動不良、引っかかりがないこと)
- パワークレーン取付部
(ゆるみ、がた、損傷がないこと)
- 吊りバレルの傷、ほつれがないこと

■ その他必要となった点検整備の内容および主な交換部品

型	式	タント ターンシート	
架装物名			
車体 No.			
お客様の業種・積載物	架装メーカ	装車名	
依頼者の氏名または名称及び住所			
氏名または名称			
住所			

メンテナンスに関するアドバイス

型

式

初年度登録または初年度検査年

自動車登録番号または車両番号(左記の無い車両にあっては、車台番号)

自動車分解整備事業者の氏名または名称および事業場の所在地
氏名または名称

事業場の所在地

認証または指定番号

点検の年月日

点検時の総走行距離

整備を完了した年月日

km

年

月

日

整備主任者の氏名

**お問い合わせ、ご相談は、ご購入いただいたお店、
最寄りのダイハツ販売会社、または
ダイハツお客様コールセンターまでお願いいたします。**

**お問い合わせには、あらかじめ次の事項に
ついて確認の上、ご連絡願います。**

- (1) 車名および型式、登録番号
- (2) ご購入年月日
- (3) 走行距離
- (4) お客様のご住所、お名前、電話番号

お問い合わせ、ご相談は、ご購入いただいたお店、
最寄りのダイハツ販売会社または下記までお願いいたします。

ダイハツお客様コールセンター

フリーコール  0800-500-0182

受付時間 9:00~17:00

〒563-8651 大阪府池田市ダイハツ町1番1号



弊社におけるお客様の個人情報の取り扱いについては、ダイハツ工業株式会社ホームページにて掲載しております。(<https://www.daihatsu.com/jp/privacy.html>)

シートベルトを締めましょう

●車両の仕様等の変更により本書の内容が車両と一致しない場合がありますのでご了承ください。